

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月

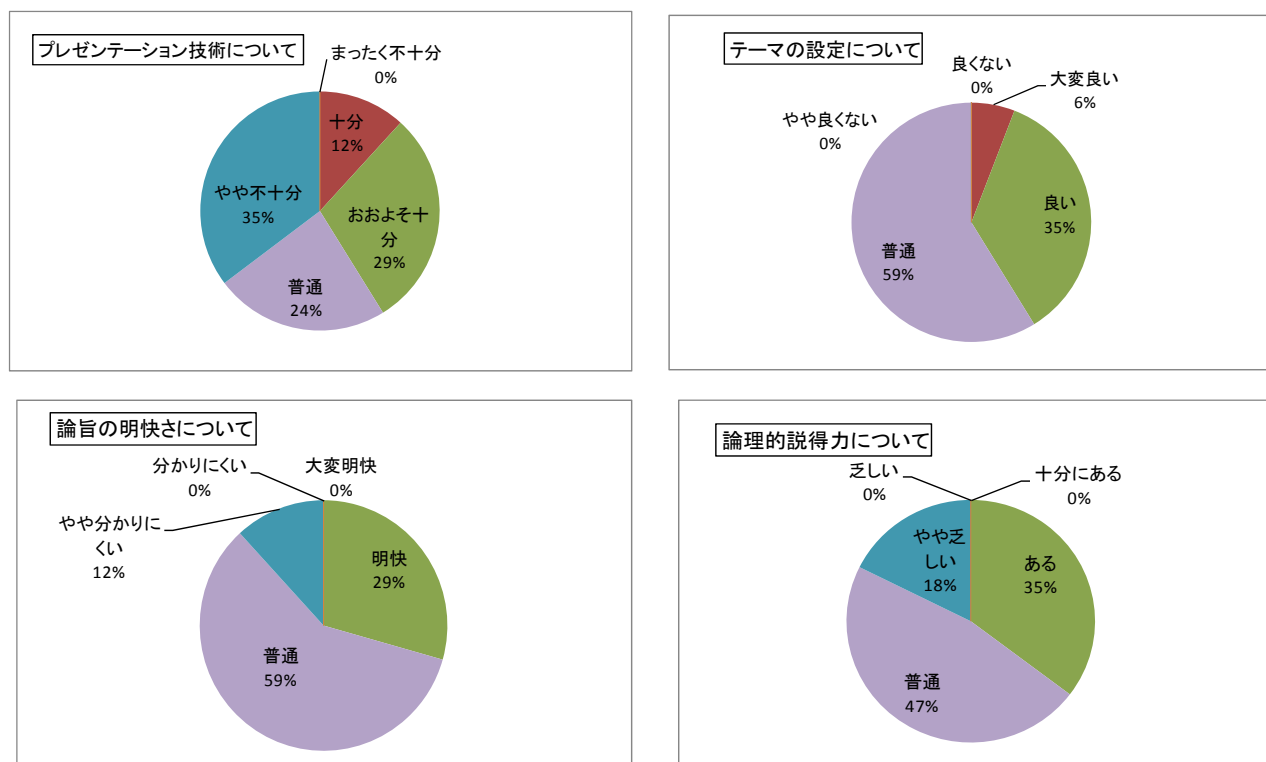
高知大学

目 次

資料 1	修士論文発表会参加者アンケート・・・・・・・・・・	1
資料 2	高知大学の初年次教育に関する調査結果・・・・・・	2
資料 3	共通教育キャリア形成支援科目実施体制図及び開講題目・・・・・・	3
資料 4	分属及び転学部・転学科に関するアンケート結果・・・・・・・・・・	4
資料 5	共通教育科目のシラバスチェック基準及びチェック結果・・・・・・・・・・	5
資料 6	教育力向上3カ年計画における教育力の改善の取組・・・・・・・・・・	6
資料 7	学士課程の教育改革（平成20年度以降）イメージ図・・・・・・	7
資料 8	フィードバック調査結果・・・・・・・・・・	8
資料 9	第1期中期目標期間における施設整備事例・・・・・・・・・・	9
資料 10	遠隔講義システム利用実績・・・・・・・・・・	10
資料 11	「第5週目授業改善アンケートに答えて」回答結果・・・・・・	11
資料 12	全学FDフォーラム2009参加者アンケート・・・・・・	12
資料 13	高知市総合調査（第1編及び第2編）担当一覧・・・・・・・・・・	13
資料 14	高知大学団地別バリアフリーマップ・・・・・・・・・・	15
資料 15	第1回地域若者チャレンジ大受賞記事・・・・・・・・・・	16
資料 16	就職ガイダンス等実績・・・・・・・・・・	17
資料 17	高知大学防災すけっと隊活動紹介記事・・・・・・・・・・	18
資料 18	大型外部資金による採択事業等一覧・・・・・・・・・・	19
資料 19	特別研究経費プロジェクト成果等一覧・・・・・・・・・・	19
資料 20	産学官連携事業実績・・・・・・・・・・	20
資料 21	高知大学国際交流基金助成実績・・・・・・・・・・	21
資料 22	第1回高知大学 東京シンポジウムプログラム・・・・・・・・・・	22
資料 23	「土佐フードビジネスクリエーター人材創出」組織体制・講義内容・受講生内訳・・・・	23
資料 24	教員研究経費配分イメージ図・・・・・・・・・・	24
資料 25	科学研究費補助金獲得のためのインセンティブ経費取扱要領・・・・・・・・・・	25
資料 26	若手教員等による自発的な取組等の促進を図るための配分について・・・・・・・・・・	26
資料 27	平成20, 21年度 部局長裁量経費を活用した研究プロジェクト等一覧・・・・・・・・・・	26
資料 28	認証型Web申請・審査システムについて・・・・・・・・・・	28
資料 29	全国共同利用申請採択状況及び研究一覧・・・・・・・・・・	29
資料 30	全国共同利用研究成果発表会開催案内・・・・・・・・・・	30
資料 31	高大連携授業プロジェクト実施実績・・・・・・・・・・	31
資料 32	高知大学国際交流のあり方について一次期中期計画を見据えて・・・・・・・・・・	32
資料 33	フィールド科学先端研究者ネットワーク図・・・・・・・・・・	33
資料 34	高知大学国際交流活動実績・・・・・・・・・・	34
資料 35	高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）設立大会・・・・・・・・・・	35
資料 36	高知大学総合情報センター広報誌「OWL（あうる）」・・・・・・・・・・	36
資料 37	特別資料展開催ポスター・・・・・・・・・・	37

資料 1 修士論文発表会参加者アンケート

(平成 22 年 2 月 14 日実施；人文社会科学専攻/学外者含む)



自由記述（抜粋）	
学外者	取り上げられていたテーマは、地域社会の問題、看護師の国際移動、育児休業制度、独禁法といった現在の社会問題であり、院生の鋭い問題意識が伺えた。データを踏まえた報告は、専門研究の水準にほぼ到達していて、今後一層の研鑽を期待したいと思っている。
	要旨だけのレジメだと専門外の内容だと理解しにくいところがあり、分かりやすいレジメが欲しい。報告者によって、指導教員のコメントがなかったのが残念。時間配分の仕方があまり良くなかった。パワーポイントのプレゼンが効果的でない。情報過多で報告に必要なのか疑問である。個々での指導ではなく、全体的に M1 の間に訓練させた方が良いのではないかな。院生以外の学生参加が少なくもったいない。参加者を増やす努力が必要。
教員	質問時間のオーバーが多い。始めから 10 分程度取っておくべきでは。活発な質疑応答が行われたことは評価し得る。
	多大学院において発表会は院生が司会、計時等も行っている場合が多い。本専攻においても学生主体で行ってみたい。
	発表会の性質上、専門外の聞き手のことを考えに入れるべきではないか。学会発表のように知識の共有を前提にはできない。

資料2 高知大学の初年次教育に関する調査結果

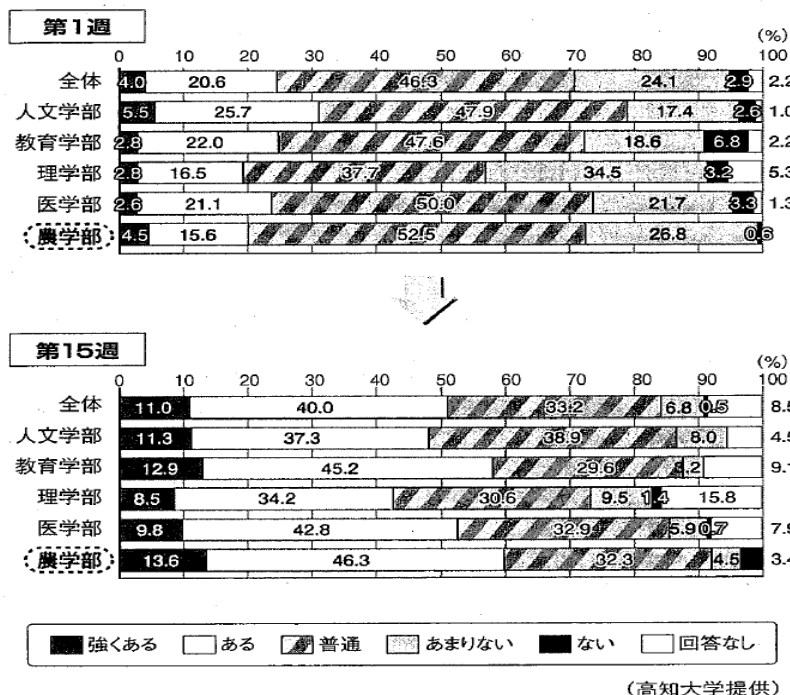
(出典：朝日新書「対決!大学の教育力」より)

【図25】高知大学（農学部）の効果測定

コミュニケーション能力

自分の考えを伝える

Q グループや仲間たちと何かしようとする時、自分の考え方や意見を相手に理解してもらえように話ができますか



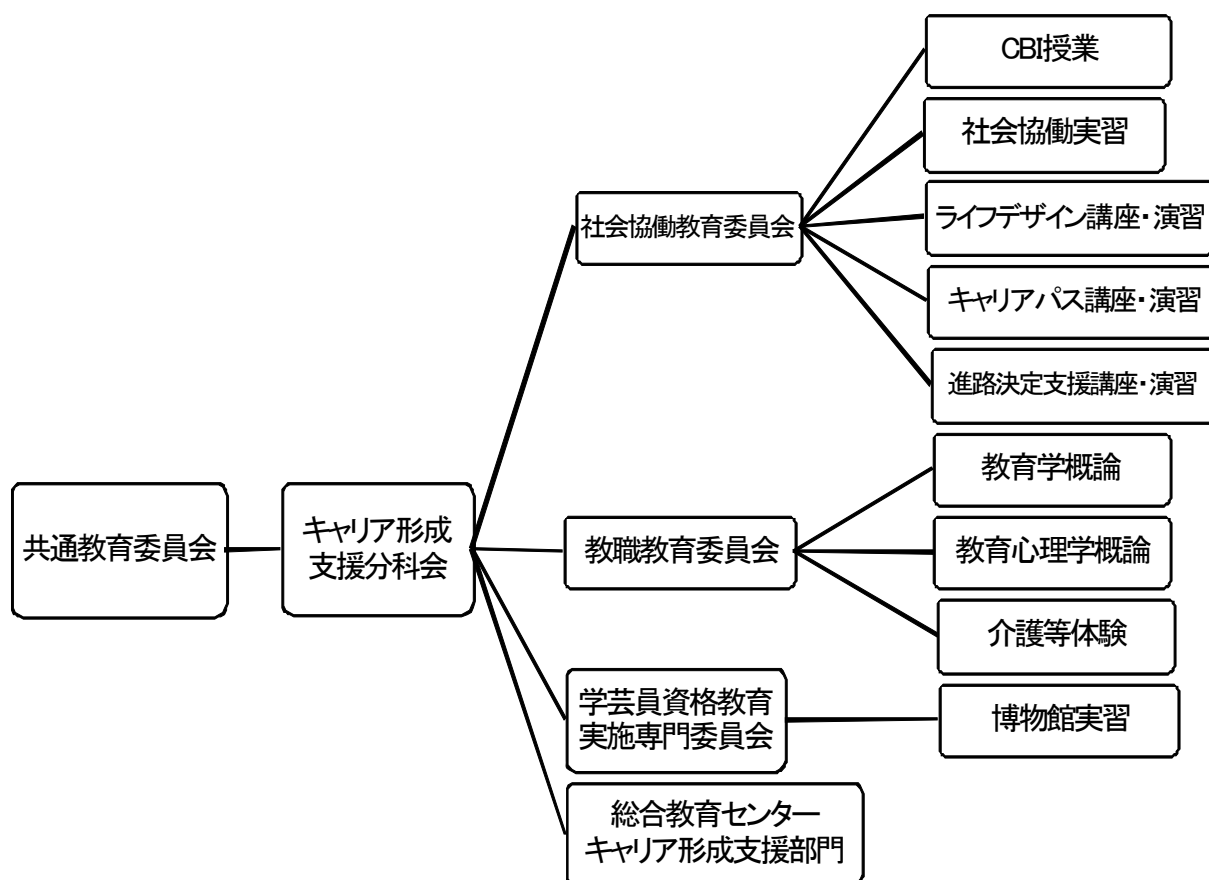
河合塾の初年次教育調査で評価の高かった大学・学部（上位大学を抜粋）

大学 (学部)	A-1	A-2	A-3	B	C
岩手県立※ (ソフトウェア情報)	a	a	a	a	a
関西国際 (人間科学)	a	a	a	a	a
高知※(農)	a	a	a	a	a
金沢工業(全学)	a	a	a	a	b
名古屋商科(全学)	a	a	a	b	a
評価の視点					
A-1	PBL(Problem/Project Based Learning)で問題発見・解決型の取り組みがどの程度導入されているか				
A-2	初年次ゼミにおいてグループワークが、どの程度、どのように導入されているか				
A-3	初年次ゼミ以外で命題知から実践知・活用知への転換を促進する取組が、どのように、どの程度あるか				
B	「学生の自律・自立化」を促す取り組みを行っているか				
C	すべての学生に一定水準以上の初年次教育を保証しているか				

※初年次ゼミが全員必修もしくは、事実上90%以上の学生が履修し、必修と同等となっていることを前提条件。

資料3 共通教育キャリア形成支援科目実施体制図及び開講題目

(出典：学士課程教育の改革案－2008年度実施に向けて Ver. 4－より)

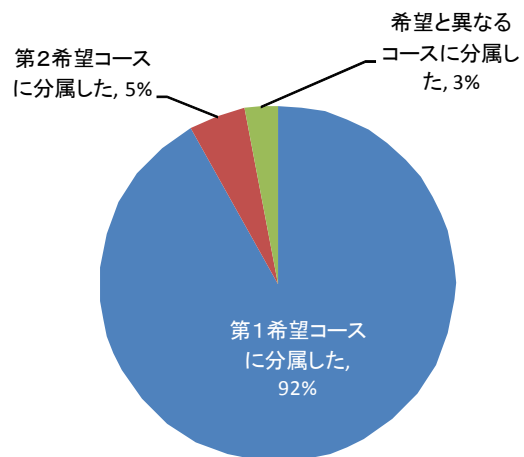


※ 付きカテゴリー名及び授業題目は新設

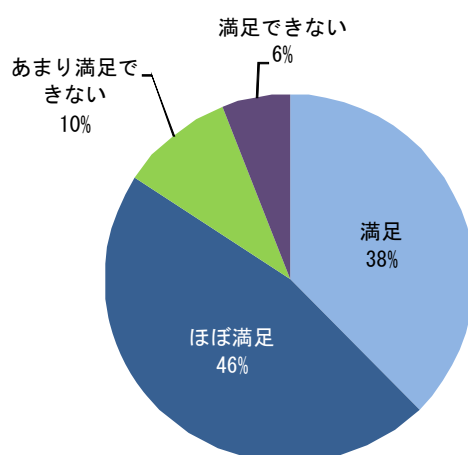
就 業 に 必 要 な 諸 能 力 習 得 支 援	全 学 開 講	題 目 名		単 位
		ライフデザイン講座（講義）※		2
		ライフデザイン演習※		2
		キャリアパス講座（講義）※		2
		キャリアパス演習※		2
		進路決定支援講座（講義）※		2
		新を決定支援演習※		2
		CBI授業 （1年2学期～2年 9月期）	CBI企画立案	2
			CBI実習Ⅰ	2
			CBI実習Ⅱ	2
			CBI実習Ⅲ	2
			CBI実習Ⅳ	2
			CBI実習Ⅴ	2
			CBI実習支援演習	2
		社会協働実習（1カ月の事前事後指導を含む）※		2
	学 部 開 講	人文学部開講		2
		教育学部開講		2
		理学部開講		2
		農学部開講		2
資 格 取 得 支 援	教 職 関 係	教育学概論		2
		教育心理学概論		2
		介護等体験（事前事後指導含む）		2
	学 芸 員 関 係	博物館実習		3
そ の 他		そ の 他 各 学 部 開 講 題 目		

資料4 分属及び転学部・転学科に関するアンケート結果

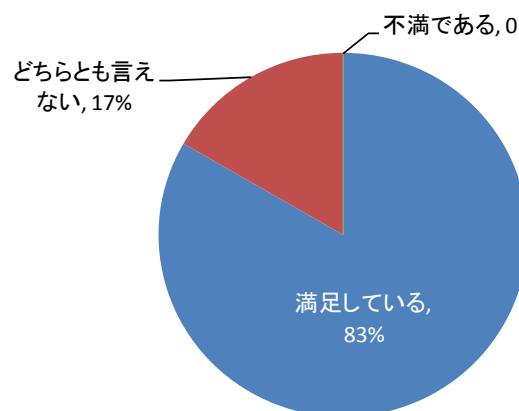
◇理学部（平成20年度卒業予定者アンケートより＜平成21年1月～2月実施＞）



◇農学部（平成21年度 新入生のコース分属イベントに関する意識調査より＜平成21年7月実施＞）



◇転学部・転学科アンケート（制度利用者との面談による調査＜平成21年10月～平成22年1月実施＞）



資料5 共通教育科目のシラバスチェック基準及びチェック結果

※目的

- 1) 学生（受講生）が主語で書かれている。
 - 2) なぜこの授業をとらなければならないか（存在意義）がわかるように書かれている。
 - 3) 位置付け（教養の場合は共通教育の中での，基礎科目は学科，コースの中での）がわかるように書かれている。
 - 4) 授業で学習した結果，何ができるようになるかを表す動詞（別表）を使って書かれている。（内容が書かれていれば可）
- ◆多少抽象的でも構わない。複雑な概念を持つ動詞，総括的な概念を持つ動詞を使って書かれている。

※目標

- 1) 学生（受講生）が主語で書かれている。
 - 2) 目的に対応して書かれている。一つの目的に対し，いくつかの具体的目標が書かれている。
 - 3) 知識・態度・技能に分けて書かれている。
 - 4) 一つの文章に一つの目標が書かれている。
 - 5) 授業で学習した結果，何ができるようになるかを具体的で観察可能な動詞（別表）を使って書かれている。
 - 6) 目標行動が評価される条件について書かれている（評価との関連がわかれば可）。
（記載例：電卓を使って〇〇できる）
 - 7) 目標行動が評価される基準が書かれている（具体例を3つ以上説明できる）。
 - 8) 授業終了後のイメージを具体的にすることができ，自学自習を促すことができる。
- ◆シラバスを読んで，どのような知識を得たら単位が出るかがわかるかどうか。
同様にどのような態度を身につけたらよいか，どのような技能を身につければよいかわかる（わかりやすい）内容である。

※成績評価基準

- 1) 評価の方法と期日が書かれている（レポートの提出締め切り，試験実施日）。
 - 2) 複数の評価方法について基準と配分が書かれている。
 - 3) 目的，目標に対応して書かれている。どの目標をどの方法で評価するかがわかる。
 - 4) 成績評価の基準が測定可能なものである。
 - 5) 観点は学習活動内容に対応している。
- ◆要チェック＊出席は評価要素ではない！！

平成21年度 学生による共通教育授業シラバス基準確認結果

対象授業数 642（調査時期 平成21年10月）

シラバスチェック基準の項目を満たしている	269	41.9%
シラバスチェック基準の項目を満たしていない	370	57.6%
未調査	3	0.5%

資料6 教育力向上3カ年計画における教育力の改善の取組

(第I期「高知大学の教育力向上3カ年計画」より抜粋)

・教育力の改善の取組への支援策

教育力の完全の取組への支援策の柱として、「授業改善アクションプラン」を位置づける。同アクションプランと同じ仕組みを「相互授業参観」や「授業のピア・レビュー」でも実施することが可能である。すなわち、「相互授業参観」や「授業のピア・レビュー」を行った直後に「授業改善アクションプラン」を作成し、最終授業評価を実施するというものである。これも視野に入れながら、支援策を構築する。

① 授業アクションプランの意義と目的

本学がこれまでに蓄積してきた授業評価・改善のノウハウを反映したものである。本学では、学生による授業評価アンケートが現在の最終評価方式になる以前は、共通教育を中心に授業評価アンケートを実施していた。

「授業アクションプラン」は、こうした本学の実績も踏まえつつ、同アンケートの分析結果に基づいて、教員がその後の授業プランを学生に提示（アンケートのフィードバック）するということに最大の特長がある。そして、提示の内容や方法は、教員の責任（主体的な判断）においてなされ、当然、多様なものになることが予想される。例えば、「改善の要望を受け入れ、こうしたい」、「こういう要望が多く出されたが、引き続き私はこうしたい」、「全体として高評価だったが、一部で改善意見があるので、このように対応したい」とか、評価の低い高いに関わらず、アンケートを踏まえて「私は今後の授業でこうしたい」ということをその根拠を示して学生に宣言することに最大の意義がある・その理由を整理すると、以下の5点ほどになると考える。

◇ 教員の授業改善に対する理解や姿勢が高まり、学生・授業に対する分析能力が向上する

◇ 学生と教員との信頼関係が深まると共に、学生の教育・授業評価能力の向上に繋がる

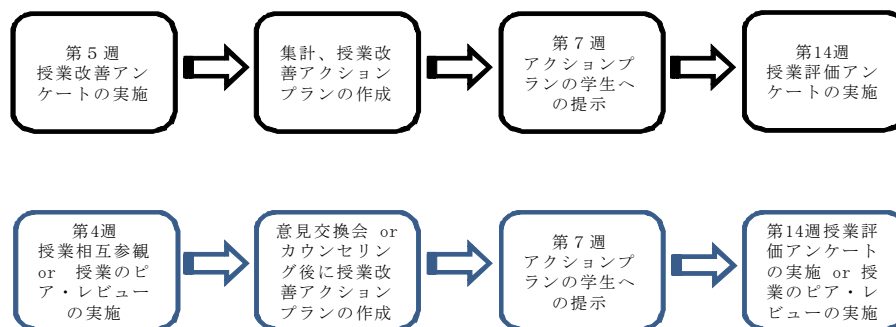
◇ 学生に授業目的の再認識や今後の授業の見通しを持たせる絶好の機会となり、学びの姿勢や意欲の向上に繋がる

◇ アンケートに回答した学生が授業改善の紅葉（利益）を当該授業期間中に享受できる

◇ 外部評価等に効果的・効率的に対処しうる日常的な仕組み（体制）を構築できる

② 授業改善アクションプランの基本展開

現在、総合教育センター大学教育創造部門「教育・授業評価部会」を中心に「授業改善アクションプラン」を試行的に実施している。同アクションプランは、授業改善アンケートと授業評価アンケートを継続して実施することを通じて、授業改善の実質化を図りその検証を行うものであり、取組の基本的な流れは以下の通りである。また、これを「相互授業参観」や「授業のピア・レビュー」に応用したパターンも例示した。



○全学取組の3つの柱と3カ年計画

・全学的取組の3つの柱

「高知大学の教育力向上3カ年計画」は、全学的且つ包括的な取組の方針に基づき、各部局等が自覚的・自律的に取組んでいくというかたちで構造化されている。故にその実現は、最終的には各部局等の取組の具体化とその責任ある実行にゆだねられている。

ここでいう全学的且つ包括的な取組の方針とは、以下の3つの柱である。

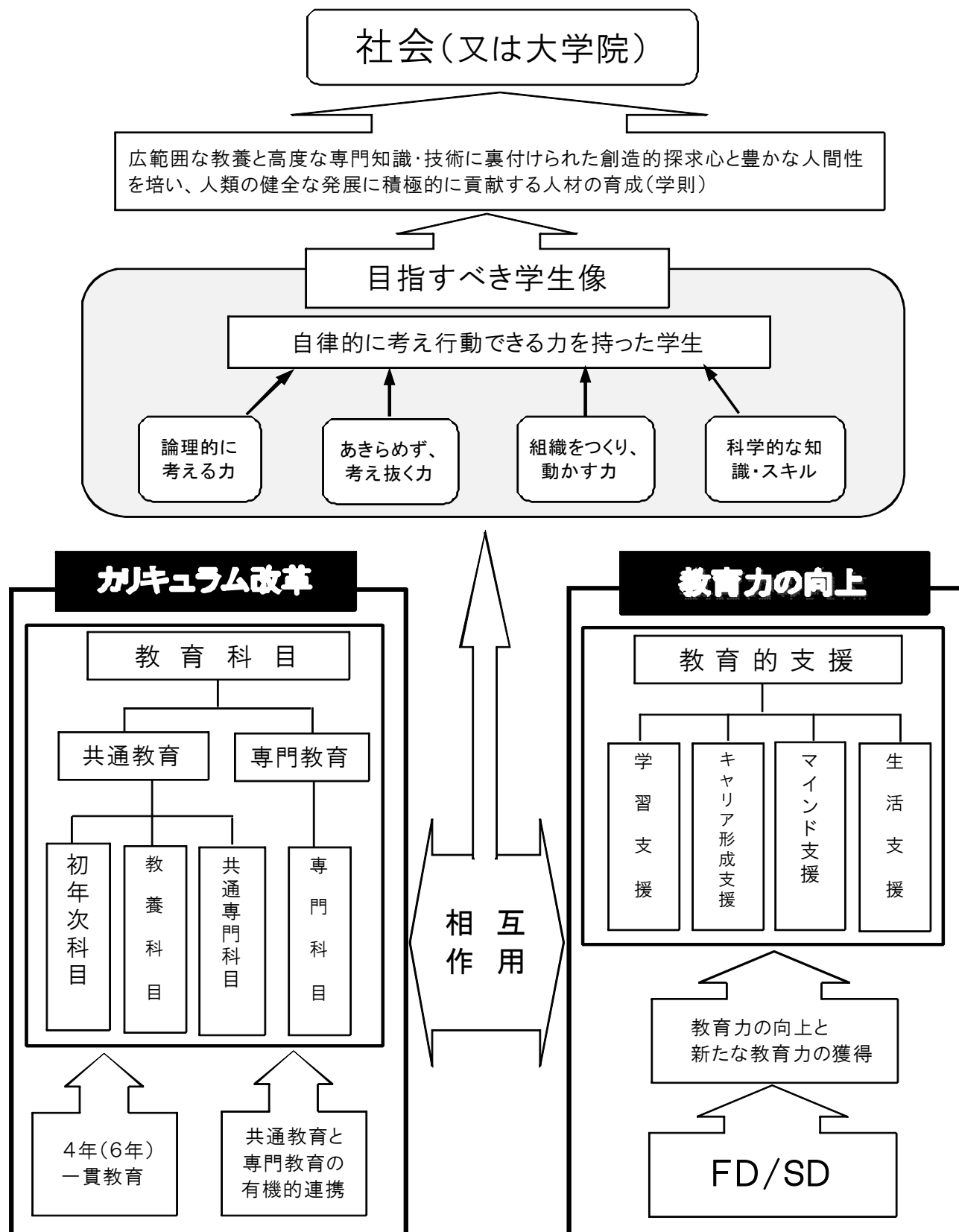
① 教育力向上のためのこれまでの取組、すなわち各種自己評価アンケート、相互授業参観、各種教員研修等の実績を踏まえ、それらの改善・充実を図り、更なる教育力の向上を目指すこと

② 授業改善に基づく教育力向上の支援策として、「授業改善アクションプラン」を軸とした新しい仕組みの授業評価アンケートや相互授業参観、さらには、一般教員（同僚教員）による授業のピア・レビューの実施及びファカルティ・ディベロッパーによる授業改善の支援を導入することと「課題探求実践セミナー」を主に活用して教員のファシリテーション能力の養成を行うこと

また、本取組を3カ年としたのは、組織的・総合的な取組としてのPDCAサイクルの確立を念頭に置いてのことである。時系列的には、1年目を「計画の具体化及び試行的実施」（P&D）の期間、2年目を「計画の実施及び評価・検証」（D&C）の期間、3年目を「計画の実施及び評価・検証及び次期アクションプランの作成」（D&C&A）の期間として位置付けている。全学或いは各部局等は、基本的にこの流れに従って計画を実行していくものである。

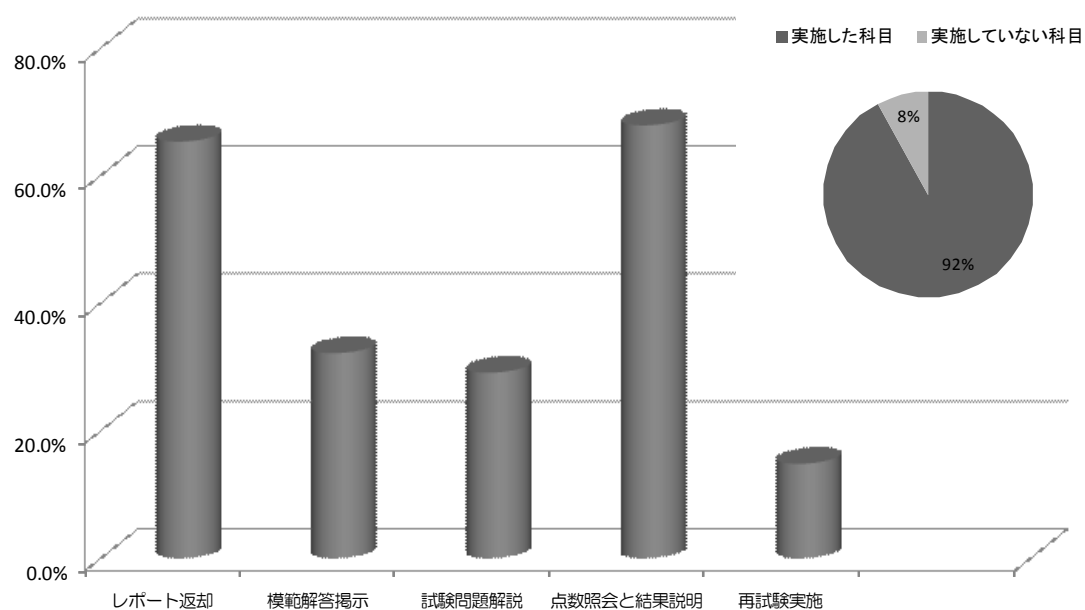
資料7 学士課程の教育改革（平成20年度以降）イメージ図

（出典：高知大学の学士課程教育改革の基本方針）

学士課程の教育改革（平成20年度以降）

資料8 フィードバック調査結果

(出典：平成 21 年度 理学部定期試験結果のフィードバック調査データ 平成 21 年月実施)



※科目により複数方法で実施

方法 コース	答案返却	レポート返却	模範解答掲示	試験問題解説	点数照会と 結果説明	再試験実施
数学	25	23	17	9	20	4
物理科学	17	20	3	7	23	7
化学/応用化学	17	25	16	17	30	6
地球科学	4	13	3	3	8	0
情報科学	7	14	8	2	10	1
海洋生命	6	11	6	6	21	6
災害科学	7	8	7	10	6	3
生物科学	3	14	3	3	15	2

資料9 第1期中期目標期間における施設整備事例

(出典：高知大学の施設概要－第一期中期目標の歩み－)



最近の主な整備事例

【第一期中期目標・中期計画期間の施設整備】

平成16年度	平成17年度	平成18年度
朝倉団地学生会館食堂空調和設備改修	(朝倉) 受水槽設備改修	(朝倉) 総合研究棟改修
理学部1号館等屋上防水改修	本部管理棟・射中特別教室等屋上防水改修	(朝倉) 特別支援学校屋内運動場改修
朝倉団地南地区テニスコート補修	(朝倉) 身障者対策	(朝倉) 共通教育1号館等空調取設
教育学部附属中学校昇降路増築	(朝倉) 教育学部他身障者対策	(小津) 附属中学校プール改修
医学部附属病院病棟浴室改修	(物部) 農学部4号館改修	(岡豊) R1実験施設排気設備改修
(岡豊) 基幹・環境整備(煙突改修)	(岡豊) PETセンター新営	(岡豊) 附属病院変電設備低圧配電盤改修
(岡豊) 基幹・環境整備(給水設備)	(医病) 基幹整備(ボイラー設備更新)	(岡豊) 医療情報ネットワーク改修
医学部附属病院中央診療棟無停電電源装置用蓄電池取替	(医病) 基幹整備(医療ガス設備更新)	(医病) 基幹整備(中央受配電設備改修)
	(医病) 基幹整備(病院通信設備更新)	(医病) 中央診療棟光学診療部門等改修
	(医病) 院内保育施設改修	
	(道添) かつら寮内部改修	
平成19年度	平成20年度	平成21年度
(理) 2号館耐震改修	(朝倉) 総合研究棟(実験系)改修	(朝倉) 共通教育3号館改修
(教) 実験研究棟P-2耐震改修	(朝倉他) キャンパス整備(囲障改修他)	(朝倉) 地震観測所改修
(教) 実験研究棟P-3耐震改修	(朝倉) 環境整備(歩道等取設)	(朝倉) 学生会館改修+新営
(朝倉) 課外活動共用施設1改修	(朝倉) 本部管理棟改修	(朝倉他) キャンパス整備(囲障改修他)
(朝倉) 課外活動共用施設2改修	(教) 実験研究及び講義棟P-4空調取設	(朝倉) 共通教育1号館改修
(朝倉) 南体育館改修	(教特他) プール改修	(物部) 農学部3号館改修
(朝倉) 南体育館及び管理棟耐震改修	(小津) 附属小学校校舎管理棟改修	(物部) 太陽光発電設備整備
(朝倉) 共通教育1号館耐震改修	(医) 実習棟解剖実習室改修	(物部) 海洋コア無停電電源装置整備
(朝倉) 本部管理棟耐震改修	(岡豊) 情報ネットワーク改修	(物部) 職員会館改修
(岡豊) 図書館耐震改修	(医病) 西病棟1階応接室他改修	(小津) 附属小学校体育館改修
(朝倉他) キャンパス整備(囲障改修他)	(医病) 総合診療部改修	(小津) 附属幼稚園5才児棟改修
(朝倉) ネットワーク改修	(神田) 実習田擁壁改修	(岡豊) 学生食堂改修
(教) 実験研究室及び講義室P-4屋上防水改修	(宇佐) 水槽実験室等改修	(岡豊) 高エネルギー治療施設新営
(物部) 講義室改修		
(農) 附属図書館及び講義室身障者対策		
(小津) 附属小学校児童棟改修		
(附小) プール改修		
(医病) 看護師宿舍耐震改修		
(医病) 基幹・環境整備(中央熱源設備)		
(医病) 基幹・環境整備(中央監視設備)		
(宇佐) 自家発電設備改修		
(道添) かつら寮内装改修		

(朝倉) 総合研究棟(実験系)改修

R3 (5,268㎡)
R3 531㎡

北東面外観(改修後)



南東面外観(改修後)



北東面外観(改修前)



実験室(改修後)



廊下(改修後)

資料 10 遠隔講義システム利用実績

平成 20 年度遠隔講義システム利用状況（平成 21 年 3 月末）

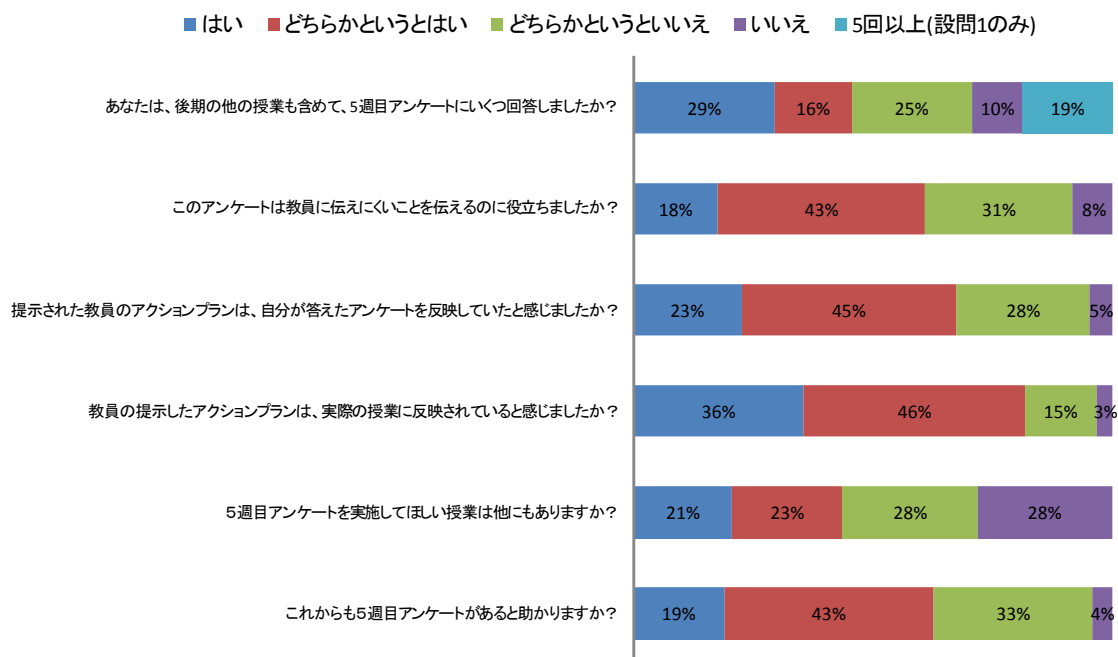
通番	授業科目または件名	利用者数	各キャンパスの利用状況
1	奨学金貸与説明会	390 名	朝倉（270）；岡豊（70）；物部（50）
2	留学生チューター説明会	23 名	朝倉（16）；岡豊（7）
3	授業料免除説明会（6/16）	320 名	朝倉（230）；岡豊（50）；物部（40）
4	海外留学に関する説明会	28 名	朝倉（27）；岡豊（1）
5	共通教育集中講義「死を考える」	464 名	共通教育棟内教室間遠隔
6	奨学金返還説明会	245 名	朝倉（123）；岡豊（56）；物部（66）
7	授業料免除説明会（1/21）	320 名	朝倉（230）；岡豊（50）；物部（40）
8	ハラスメント講演会	77 名	朝倉（55）；物部（22）

平成 21 年度 遠隔講義システム利用状況（平成 22 年 3 月末現在）

通番	授業科目または件名	利用者数	各キャンパスの利用状況
1	介護等体験（事前指導・事後指導含む）	106 名	1 学期水曜日 4-5 時限目 朝倉（100）；物部（6）
2	留学生チューター説明会（4/15）	34 名	朝倉（31）；岡豊（3）
3	奨学金貸与説明会	420 名	朝倉（300）；岡豊（70）；物部（50）
4	海外留学に関する説明会	26 名	朝倉（25）；岡豊（1）
5	授業料免除説明会（6/16）	320 名	朝倉（230）；岡豊（50）；物部（40）
6	WEB 履修説明会	80 名	朝倉（40）；岡豊（30）；物部（10）
7	教員免許状更新講習（8/17）	175 名	朝倉（112）；物部（63）
8	教員免許状更新講習（8/18）	175 名	朝倉（112）；物部（63）
9	教員免許状更新講習（8/20）	155 名	朝倉（122）；物部（33）
10	教員免許状更新講習（8/21）	175 名	朝倉（122）；物部（33）
11	WEB 履修説明会	80 名	朝倉（30）；岡豊（30）；物部（20）
12	留学生チューター説明会（10/21）	24 名	朝倉（21）；岡豊（3）
13	奨学金返還説明会	215 名	朝倉（113）；岡豊（46）；物部（56）

資料 11 「第 5 週目授業改善アンケートに答えて」回答結果

(対象：1 年生；平成 21 年 10 月実施)



Q. 5 週目アンケートで聞いて欲しい項目があれば書いてください。

・ 教員の授業中の態度は適切か。
・ 課題の量について
・ このアンケートに適当に答えていますか？

Q. 授業を良くするための 5 週目アンケート、改善点を挙げるとしたらどんなことを思いつきますか？

・ ある、なしの回答ではなく、どう思うやどうして欲しいかを書く部分が欲しい。
・ 調査しても教員にはどうしようもない質問（説明の分かりやすさや熱意など）はやめて、単に「この授業に興味を持てるか？」という質問に統合すべきだと考える。
・ 全ての授業で行う必要があると思う。
・ 次の授業にアンケート結果を出して、それについての戦線からのコメントが欲しい（短くても良いので）。
・ 「どちらとも言えない」が多くなるので、明確にしてほしい。
・ 悪いところを書ける方が良い。
・ 時間がかかりますが、ある程度は記述が 1 回目のアンケートにもあった方がより意見を反映したものになると思います。
・ 自由に意見を書ける場所がある方が役に立つかも、と思います。
・ 記述部分があると自由に書き易い。①～⑤のみだと、上手く通っているか心配。
・ 最後に記述部分を作っても良いと思います。
・ アクションプランを示さない教員がいるので、あまり意味がないのでは。教員が改善をするきっかけとなるなら続けると良いと思う。

資料 12 全学FDフォーラム 2009 参加者アンケート

(＜第2部＞授業力をアップするための極意とは？における参加者アンケート(抜粋) 平成21年12月実施)

1. 本日の研修で一番役に立ったのは、どの内容でしょうか？	2. 本日の研修のご感想をお願いできませんでしょうか。	3. 次の機会があれば、このようなテーマや内容について学んでみたいと思うものを、ご自由にお書き頂けないでしょうか。
講義内容の精選と講義方法の工夫	日頃行っていることを客観視できたことが有益であった。と同時に新しい方法を知ることができ明日からの講義への取り組みへの意欲を持つことができた。	
「Aを通じてB」最近わすれていたと思います。 むかしはA→A→Aで楽しい学生が多かったが、今は少し少数派	プレゼンは贈り物だと思います。 学生がよろこんでくれる授業をころがけたいと思います。	良い質問のしかた、良い質問のつくり方を学びたい。
教えることは相手に「もっと学びたい」と思ってもらうことが大切だということ。 そのためには「何のために」学ぶのかを明確に伝え、理解し考えてもらうことが大切だということ。	とてもわかりやすい内容で説得的でした。教えるということについて「もっと学びたい」と思うような研修でした。ありがとうございました。	本日のお話は「個人が教える」ことについてでしたが、さらに「教員集団として教える」ということに関する問題(これがとくに大学では難しいのです)について学び考えてみたいと思っています。
授業＝プレゼン パワポは98%完成で残り2%を空欄にするという点 大好きマップはやってみたいです。 自分が学生の立場になって、何を学びたいのか考えること。	かなり充実した内容でした。授業の中ですぐに使いたいです。デザイン研究室はクリエイティブなことを中心にやっていますが、言葉での情報伝達は非常に大切だと思っています。今回の研修は是非学生に還元していきたいです。	
「To Whom」&「For What」 いつも学生に言っている話ですが、日々のコミュニケーション/授業で明確化できていないことを痛感しました。	「魚をあげる」のではなく「魚の取り方を考える」と言いますが、先生の話はもっと根本の「何のために、どの魚を取るか」を教えるキッカケになると思います。	
アイスブレイクの大好きマップー共感	グループワークを通じた気づきが多かった。実際には自分の授業方法に対する振り返りの意味が大きく、改善可能な点が見えてきた。	
頭ではなく「体で覚えよう！！」 「もっと学びたい」と思える授業をすることがとても大切だと思いました。	今回技術ではなく、メンタル的なことを教わり、大変楽しく学びました。教員になってまだ5か月ですが、早い段階で先生のお話をきくことができて良かったと思います。今後は自身をもって授業に取り組めそうです。ありがとうございました。	能力に差がある学生の場合、レベルが下がっていく学生にあわせ、すべての学生が国家試験に合格できるように合格率を上げる授業をすべきですか？ 大学が予備校のようになってる気がします。
具体的な授業内容を学ぶ意義(先にある喜びetc)を対象者に知らしめることの重要性。	これまで「授業のやり方」について1度も学んだことがなかったので、様々な発見・反省があり、大変有意義な研修でした。	
具体的な準備なども有益でしたが、自分のこれまで信じていた熱意を伝えることが重要であると再認識しました。	この様な活動は大変重要です。特に教育が失われている小学生の教育に活躍していただきたいと思います。	
A内容、B面白さ・喜び のバランスが大切 ↓ 伝えたいことが大事。学びたいと思えるような授業をする。	わかりやすく情熱のあるお話でとても勉強になりました。	
「コミュニケーションの際に相手との共通点を見つけることが大切だ」ということ。 なんとなく心にあったことだと思いますが、先生に今日あらためて教えていただき知識として(知恵?)蓄積できました。ありがとうございました。	教育のコミュニケーションの指針となるものを教えていただけたと思います。ありがとうございました。	建設的なクレームの付け方を教えていただきたいです。
何を教えるかと何のためにのバランスが大事	私は「どうやったら生徒が理解できるか」ということや「何をどう教えるか」ということばかりに気を取られていたということに気づきました。私は学部生ですが、模擬授業を考えるとき「何か面白くない授業になるな」といつも考えていました。今回の研修で、どうして授業が面白くなっているのか、どうしたら良い授業になるのかを考える上での大きなヒントを学ぶことができ、大変面白かったです。 この研修で学んだことを糧にしてこれからがんばっていこうと思います。	
・プリントのテキストで『 』の中に言葉をうめるような内容 ・教え方を「家の建設」に例えたところ(家を建てるためにはまず土台が必要であることと同じように…)	・グループワークのディスカッションは楽しかったと思います！(意見を話すことができたので)	・「(よい授業ができるようにするために) 大学教育を民営化してはどうか…？」 ※大学の役割である研究は「公・官」が運営して教育は「民」が行うようにする。 小泉総理のフレーズでも「民でできるところは民で」というのがあったけど、それなら大学教育も！
自分であらためて自分の授業の欠点を見直しする時間を頂いたので。		・クラス全員の学生がある程度以上のレベルに到達するようにするか。 ・一定の学生(意欲ある)がさらに伸びることに力を入れ、他の学生は「まあまあの授業かな」と思わせる程度でよしとするか。 一定の時間の中でどちらを優先するかが現在の私のジレンマです。
“Aを通じてBを伝える” これを毎日の講義資料の柱としたいと思います。 Bはその先にある大ごみ	本年の講義(15回シリーズ)が中盤にさしかかって、また無駄な講義を続けているとマイナス思考になっていたこの時期に精神的に立ちなおりました。ありがとうございました。 自分のコンセプトはかなり田中先生の考えに近かったので、自信になりました。あとはめげないでつき進むべきか。	
「Aを通じてBを教える」 Bの部分のを忘れてはいいのだけど、つい後まわしになってしまいます。	今日は本当に参加してよかったです。どうしてもスキルに目を向けがちだけど、メンタルの部分のたいせつさを思い知りました。	
学生の立場になって授業を考えていく。	わかりやすく、また、グループで意見を述べあう時間もお互いの困っていることや、アイデアなど聞くことができました。他の学部の先生も同じことで悩んでいたことがわかって安心しました。	
「授業改善」は単なる小手。そのスキルだけではないということを改めて確信したこと。	大変参考になりました。ありがとうございました。	
「学生の目線」(20才の自分)にもどる。 「学びたい」の振りおこしの意識を確認。	左記の再認識をしたことは有意義でした。	目的意識のない学生との目的意識をどのように共有するか。
・先生の講義をおきしつ、私の授業のふり返りができたこと。 ・目先のことにとらわれない先をみずえた授業を展開すること。	・たのしく授業を進めること。それがひいては学生に反映されることだと思います。	
先を見据えた教え方の考え方	一方的に話しを聞くのではなく、体験をふまえた研修だったため理解が深まりやすかった。日頃グループワークを行う機会が多いため、受講者の立場で体験できメンバーの意見から内容についても理解が深まった。 自分のことを客観視する機会となった。	
・明確な答えは具体的質問により返ってくる。 ・その答えは自分の内にあること。 ・また学生自身をもっていること。要は質問の仕方。 ・具体的な例示の方法(家、すし、食べ物) ・「すし」と「しょうゆ」農学部特に私の果樹は実利の学問なので、このバランスが大事です。しゃり(学問)とねた(応用)とわさび、しょうゆ(知的好奇心とか自己実現)の関係かもしれません。	初心にかえて考え続けることが大切であることを改めて感じました。たぶん年1回くらいで気合(こらした研修)が必要かもしれませんが、自分でロールプレイング・対話して「初心忘るべからず」でがんばりたいと思いました。	
グループワークにおける「望ましい教師・望ましい考え方とは？」	予想以上に心の中に残るものがありました。 今後の授業・プレゼンに活かしていきたいと思います。	
「何のために教えるのか」考えさせられました。 完全を求めてしまいがちですが「The Courage to be imperfect」はこれから考えたい。	私も島田紳助は話し方の師匠です。	
グループワーク: 違った専門の先生方の意見を聞くことができ有意義であった。	グループワークがにがてな私にとってアンケートから始まった講演がどうなるかと思いましたが、楽しく講演を聞くことができました。	
主観的な客体と客観的な主体の確認が必要だということ。	今まで「話が「うまい」」と思った人はAとBのバランスが良かったのだと気づきました。ただ、こと「授業」について言うと、ある種の教授はBが正しいと思いました。それは、子どものころからのその分野のことが大好きな人です。(その典型が文学研究者だと思います。)そのような人たちは「好き」ということが深められていないので、語るができない。なので、今後は研修の中に「好き」を深化させるプログラムがあればいいのかなと思いました。	

高知市総合調査 第1編 「地域の自然」 担当者

平成21年3月

- | | |
|---|---|
| 第1章 太陽系の中の地球・高知
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
村上 英記 | 第15章 高知市の昆虫相
高知大学教育研究部自然科学系農学部門教授
荒川 良 |
| 第2章 地質分野
高知大学副学長、教育研究部自然科学系理学部門教授
吉倉 紳一 | 第16章 高知市生物調査（哺乳綱・爬虫綱・両生綱）
NPO法人四国自然史科学研究センター長
谷地森秀二 |
| 第3章 土 壌
高知大学理事（総務担当）
櫻井 克年 | 第17章 鏡川淡水域の魚類相
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
遠藤 広光
高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程
清沢遼太郎
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
町田 吉彦 |
| 第4章 高知市とその周辺の地層と化石
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
近藤 康生 | 第18章 浦戸湾とその流入河川河口域の魚類
高知大学大学院理学研究科博士前期課程修了
阪本 匡祥
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
町田 吉彦
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
遠藤 広光 |
| 第5章 南四国の地形
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
岩井 雅夫 | 第19章 高知市新川川の魚類相
高知大学大学院理学研究科博士前期課程修了
石川 晃寛
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
町田 吉彦
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
遠藤 広光 |
| 第6章 高知県の気候・地形および四国沖の海底地形
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
海洋コア総合研究センター
村山 雅史
高知大学副学長、教育研究部自然科学系理学部門教授
吉倉 紳一 | 第20章 浦戸湾の刺し網で得られたカニ類
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
町田 吉彦
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
遠藤 広光 |
| 第7章 土佐湾沿岸から土佐海盆の地質と環境
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
海洋コア総合研究センター
池原 実 | 第21章 高知市の干潟に生息するカニ類
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
町田 吉彦
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
遠藤 広光
高知大学大学院理学研究科博士前期課程修了
山本 藍子
高知大学理学部卒業
渡邊 博満 |
| 第8章 高知市沿岸の海洋について
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
海洋コア総合研究センター
岡村 慶 | 第22章 土佐湾の堆積物底の無脊椎動物
高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門准教授
伊谷 行
高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科博士課程
山田ちはる |
| 第9章 四国南部沿岸域の植生史
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
三宅 尚 | |
| 第10章 高知県の植生
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
石川 愼吾 | |
| 第11章 鏡川の河辺植生と植物相
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教授
石川 愼吾 | |
| 第12章 高知市の蘚苔類
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
松井 透 | |
| 第13章 菌類・地衣類
高知大学教育研究部自然科学系理学部門准教授
岡本 達哉 | |
| 第14章 アメンボを指標とした高知県の温暖化現象の検討
高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門准教授
原田 哲夫 | |

高知市総合調査 第2編 「地域の社会」 担当者

平成22年3月

第1章 高知市の地域特性の分析

高知大学総合教育センター 教授	塩崎 俊彦
高知大学人文学部 准教授	石筒 覚
高知大学総合教育センター 講師	俣野 秀典
高知大学人文学部 教授	鈴木 啓之

第2章 高知市の経済産業構造の分析

高知大学人文学部 准教授	石筒 覚
高知大学人文学部 准教授	中澤 純治

第3章 高知市の地域社会の分析

高知大学総合教育センター 准教授	玉里 美恵子
高知大学総合教育センター 准教授	大槻 知史
高知大学人文学部 教授	上田 健作
高知大学総合教育センター 講師	俣野 秀典

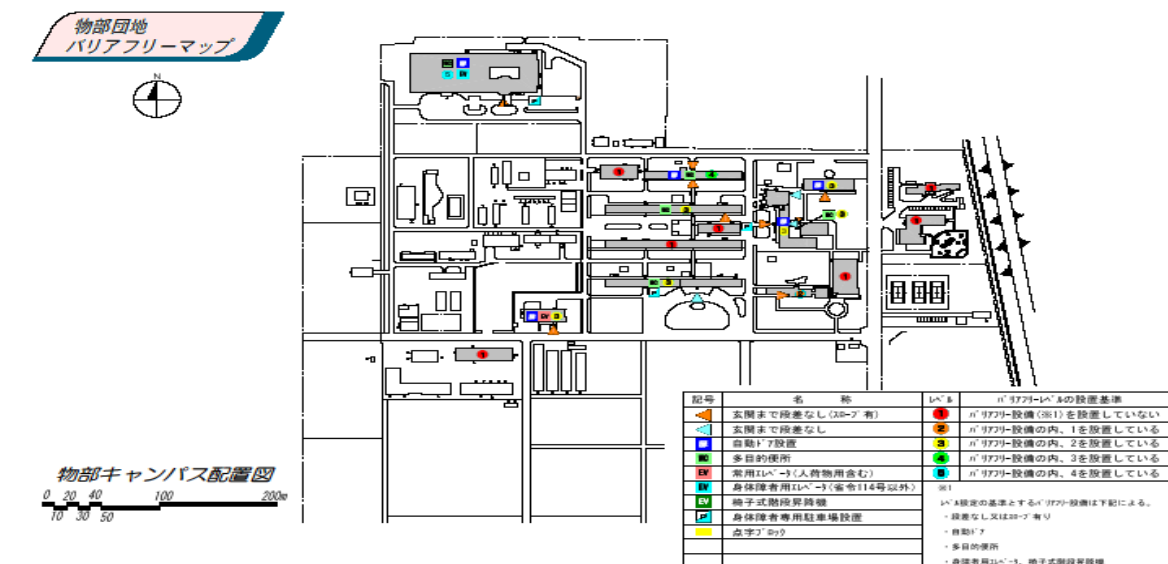
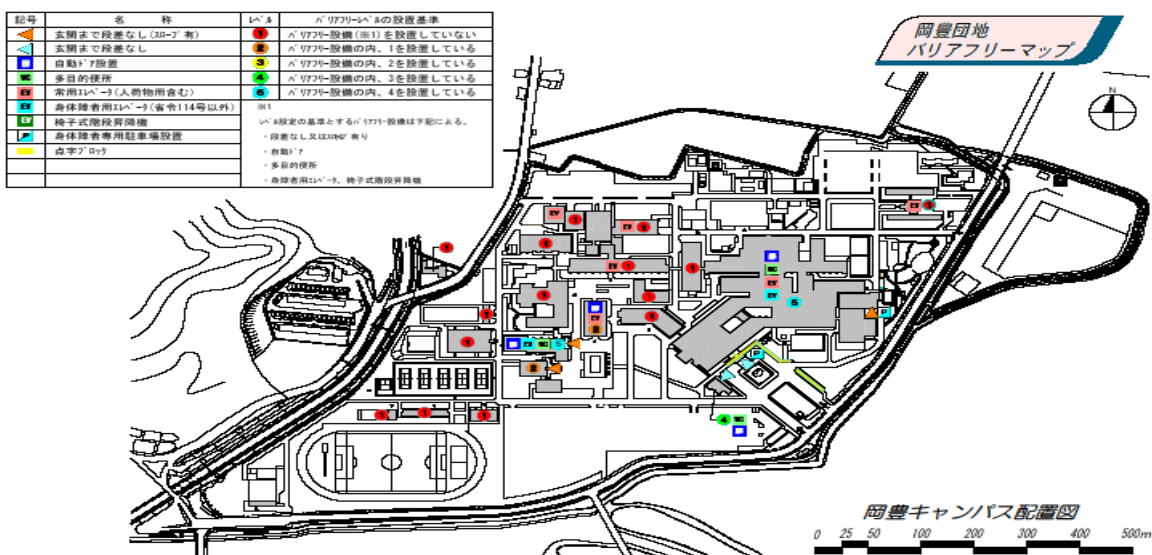
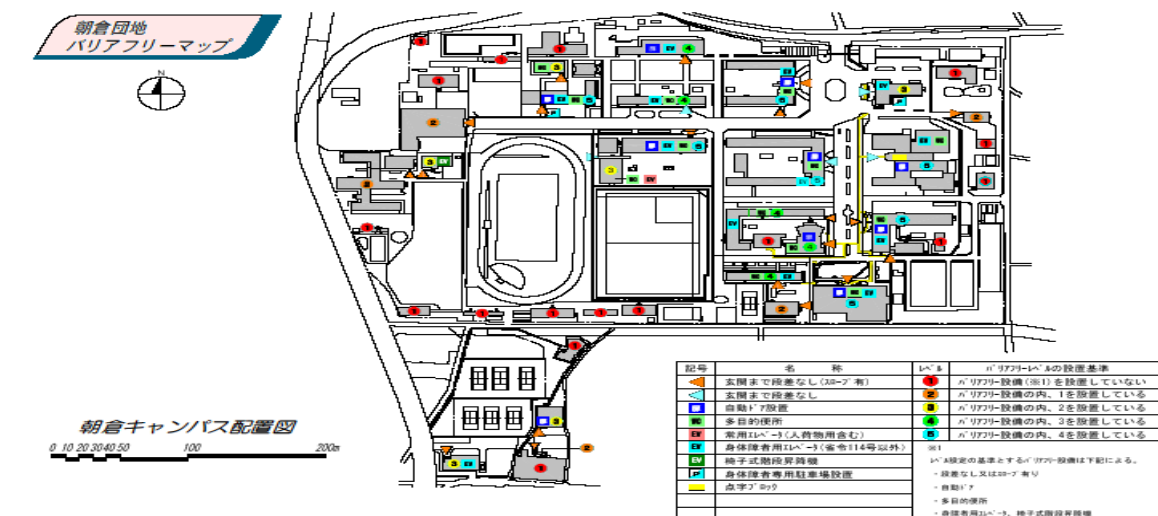
第4章 高知市の財政状況

高知大学人文学部 准教授	霜田 博史
--------------	-------

資料 14 高知大学団地別バリアフリーマップ

(出典：高知大学の施設概要－第一期中期目標の歩み－)

高知大学のよりよい教育研究環境の充実のために



資料 15 第 1 回地域若者チャレンジ大賞受賞記事

(平成 20 年 11 月 13 日掲載)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

資料 16 就職ガイダンス等実績

平成20年度

(平成21年3月末)

就職支援関連事業		参加者数	備考
5 月	就活力セミナー	215	
	就職対策講座①	204	
	公務員ガイダンスⅠ	49	
	教職ガイダンスⅠ	71	
	(教育学部) 教員採用直前講座 7 回開催	289	延べ数
6 月	就活力セミナー	195	
	就職対策講座②	193	
	(教育学部) 教員採用直前講座＜実技＞	41	
	(教育学部) 教員採用直前講座＜模擬面接＞	24	
7 月	就活力セミナー	129	
	特別企画講座	128	
8 月	教員採用試験第2次審査対策・指導	32	
	模擬授業	20	
10 月	首都圏サポート企画	21	
	教職ガイダンスⅡ	92	
	企業・業界研究	39	
	就活力セミナー	208	
	就職対策講座③	209	
11 月	(教育学部) 就職セミナー	50	
	就活力セミナー	168	
	日経読み方セミナー	30	
	就職対策講座④	279	
	就職対策講座⑤	213	延べ数
	就職対策講座⑥	122	
	学内写真撮影会	316	
	公務員ガイダンスⅡ	32	
12 月	首都圏サポート企画・バスツアー	34	
	公務員ガイダンスⅡ	30	
	就活力セミナー	184	
	教職員向け就職支援ガイダンス	26	
	大阪サポート企画・バスツアー	23	
	業界研究セミナー	128	
	公務員ガイダンスⅢ	21	
1 月	教職ガイダンスⅢ	45	
	集団面接	58	
	合同会社説明会 (参加企業73社)	430	
	首都圏ガイダンス	36	
	エントリーシート対策セミナー	48	
	教職ガイダンスⅣ	9	
2 月	就職支援企業による個別指導	17	
	(教育学部) 3 年生・修士 1 年向け就職セミナー	30	
	面接対策セミナー	19	
3 月	公務員ガイダンスⅣ	44	
	就職支援企業による個別指導	89	
	就職支援企業による個別指導	11	
	首都圏企画「OB・OGによる就活支援」	5	
(人文学部) キャリア・セミナーⅠ及びⅡ (計4回開催)			
(農学部) 就職ガイダンス・就活セミナー・企業研修			

資料 17 高知大学防災すけっと隊活動紹介記事

(出典：高知新聞 平成 21 年 6 月 25 日記事)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

資料 18 大型外部資金による採択事業等一覧

(平成 22 年 3 月末現在)

事業名等	年度	研究課題	備 考
内閣官房地域活性化統合本部 地方の元気再生事業	20	四万十川の資源を生かした環境ビジネスの創出	(研究期間) 単年 (採択額) 8,000 千円 四万十市・高知大学連携事業推進会議
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業	21	環境・エネルギー分野 研究領域2【領域特定型】 <生物資源の持続可能な利用に資する研究> 熱帯多島海域における沿岸生態系の多重環境変動適応策	(研究期間) 5 年間 (採択額) (研究担当者) (主要相手国研究機関) フィリピン大学ディリマン校海洋海洋研究所 (国内共同研究機関) 東京工業大学(主)、北海道大学、東京大学、横浜市立大学、長崎大学
(独) 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST)	16	研究領域<糖鎖の生物機能の解明と利用技術> 病態における膜マイクロドメイン糖鎖機能の解明 (16~18) 膜マイクロドメインの糖鎖機能解析法の開発と応用(19~21)	(研究期間) 5 年間 (採択額) H20年度13,370 千円; H21年度31,824 千円 (研究担当者) 本家孝一(高知大学医学部門) (研究チーム) 大阪大学他 3 機関(H16年度採択)
文部科学省 科学技術試験研究委託事業	21	海底熱水鉱床探査の為の科学・生物モニタリングツールの開発	(研究期間) 単年(H20年度から継続): 34,360 千円 (研究担当者) 岡村 慶(海洋コア総合研究センター) (実施体制) 高知大学・岡山大学・東京大学・(財)電力中央研究所
(独) 日本学術振興会 若手研究者交流支援事業	21	<東アジア首脳会議参加国からの招へい> 東南アジアの環境・食料問題解決に向けたフィールド科学先端研究者育成プログラム	(研究期間) 2 年間<H22.9 月末迄> (採択額) 7,000 千円 (研究担当者) 山本由徳(高知大学農学部) (相手国) タイ・ベトナム・インドネシア・マレーシア (交流相手機関) カセサート大学・コンケン大学・ハノイ教育大学・ボゴール農科大学・スリウィジャヤ大学・マレーシアアプトラ大学 (国内共同大学) 愛媛大学・香川大学
内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究	21	日本沿岸海域における熱帯・亜熱帯性魚毒による食中毒発生リスクの評価法の開発	(研究期間) 3 年間(H21~23年度) (採択額) 8,500 千円 (研究担当者) 足立真佐雄(高知大学農学部)
(独) 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST)	21	気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築	(研究期間) 3 年間(H21~23年度) (採択額) H21年度51,870 千円 (研究担当者) 藤原 拓(高知大学農学部)
(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 省エネルギー革新技术開発事業	21	高輝度・高効率な電界電子放出型光源の研究開発/人工環境ボックスを使用した栽培試験	(研究期間) 単年 (採択額) 19,520 千円 (研究担当者) 島崎一彦(高知大学農学部)

資料 19 特別研究経費プロジェクト成果等一覧

(平成 22 年 3 月末現在)

事業名	年度	原著論文	著書・総説	学会発表	報道	獲得外資 (千円)	参加者数
環境調和型物質変換プロセスの構築によるニューマテリアルの創成	17	55	22	172	1	303,060	14
	18	56	26	146	1	149,650	15
	19	62	15	122	0	38,414	15
	20	67	13	120	7	154,280	15
	計	240	76	560	7	645,404	59
学際的融合によるシステム糖鎖生物学研究推進事業	21	46	9	67	13	88,944	16
	計	46	9	67	13	88,944	16
地球掘削科学のための国際研究教育拠点形成	20	12	0	123	0	124,590	5
	21	30	0	110	0	101,981	5
	計	42	0	233	0	226,571	0
「黒潮流域圏総合科学」の創成ー生物資源再生産機構の解明と環境保全型食糧生産システムの構築ー	18	59	8	139	7	49,750	24
	19	97	17	174	33	160,041	25
	20	89	6	113	13	82,428	25
	計	245	17	426	46	292,219	74
黒潮圏科学による地域社会の温暖化適応策の構築	21	40	5	42	6	24,140	16
	計	40	5	42	6	24,140	16

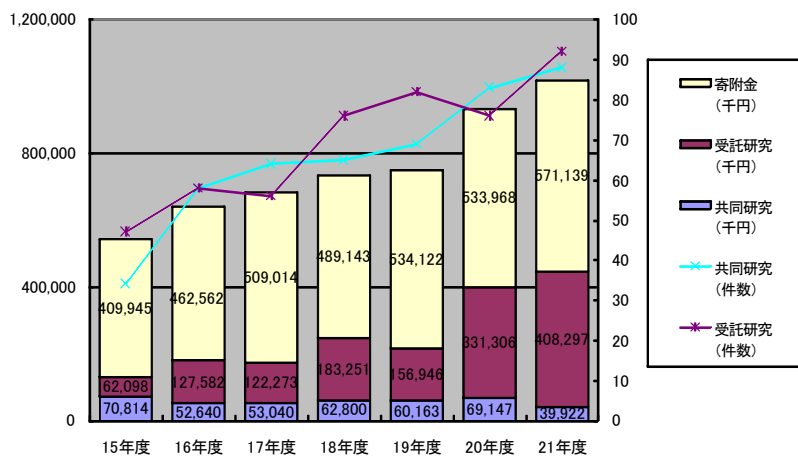
資料 20 産学官連携事業実績

(平成 22 年 3 月末現在)

・高知県連携事業	高知県産業振興計画検討委員会、高知食品産業研究会等	
・横浜企業経営支援財団連携事業	産学交流サロン、シーズ集発行、テクニカルショウヨコハマ産学連携コーナー出店	協定済
・高知市連携事業	総合調査（地域の自然・地域の社会）、街路市振興等	協定済
・室戸市連携事業	海洋深層水活用、健康増進事業、イルカセラピー等	協定済
・香南市連携事業	土佐フードビジネスクリエーター人材創出、雇用創造事業、下水処理システム	協定済
・香美市連携事業	土佐フードビジネスクリエーター人材創出	協定済
・南国市連携事業	土佐フードビジネスクリエーター人材創出、雇用創造事業、菌床シイタケ事業	協定済
・大豊町連携事業	基石茶等の効果効能に関する新規研究	協定済
・黒潮町連携事業	雇用創造事業、カツオ学会設立準備等	協定済
・土佐市連携事業	病院食共同研究	協定済
・四万十市連携事業	スジアオノリ生産量アップ、天然アユ調査等	協定済
・四国銀行連携事業	お客様科学・技術相談、各種講演会等	協定済
・高知銀行連携事業	食の相談会	協定済

高知大学産学官民連携事業数（H22.3現在）

	15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
共同研究 (千円)	70,814	34	52,640	58	53,040	64	62,800	65	60,163	69	69,147	83	39,922	88
受託研究 (千円)	62,098	47	127,582	58	122,273	56	183,251	76	156,946	82	331,306	76	408,297	92
寄附金 (千円)	409,945	632	462,562	705	509,014	710	489,143	737	534,122	679	533,968	710	571,139	729



※JST育成研究は共同研究金額に含まない。

平成17年度 1件 25,742,418円

平成18年度 3件 104,296,727円

平成19年度 5件 134,178,092円

※平成16年度より奨学寄附金から寄附金となる。

※平成19年度寄附金は医学部寄附講座（5年間）を含む。

・諸活動

大学シーズと企業等ニーズとのマッチング

共同研究等契約支援

各省庁及び自治体・企業等の外部資金獲得事業

知的財産の創出・活用支援

シンポジウム、講演会等

産学官連携関係イベント（シーズ出展等）

産学官連携に関する調査及び研究

産学官連携システム（組織化・共同体）の構築

地域連携事業

科学・技術相談

事業化支援

起業（大学発ベンチャー）支援

資料 21 高知大学国際交流基金助成実績

平成20年度 高知大学国際交流基金助成事業の実績

(平成21年3月末現在)

(平成21年3月末現在)

事 業 名		区分	件数	金 額
1	外国の大学との間で協定を締結する事業および当該協定に基づく事業 1件当たり上限50万円	申請	18	7,655,510
		採択	10	4,483,024
		採択率	55.6%	58.6%
2	外国人研究者の招へい事業 1件当たり上限50万円	申請	3	1,464,000
		採択	3	1,460,000
		採択率	100.0%	99.7%
3	外国人留学生への奨学金 月額3万円×12ヶ月	申請	33	11,880,000
		採択	17	6,120,000
		採択率	51.5%	51.5%
4	外国へ留学する学生への奨学事業 1件当たり上限30万円	申請	6	1,690,000
		採択	6	1,690,000
		採択率	100.0%	100.0%
5	大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業 1件当たり上限30万円	申請	7	1,873,905
		採択	7	1,767,500
		採択率	100.0%	94.3%
6	外国人留学生の帰国後の協力関係の樹立・維持のためのフォローアップ事業 1件当たり上限50万円	申請	0	0
		採択	0	0
		採択率	0.0%	0.0%
7	職員の海外派遣事業 1件当たり上限30万円	申請	9	2,745,850
		採択	6	1,710,800
		採択率	66.7%	62.3%
8	その他国際交流に必要な事業 国際共同研究 国際会議 その他の事業 1件当たり上限100万円	申請	10	7,594,120
		採択	6	4,640,960
		採択率	60.0%	61.1%
合 計		申請	86	34,903,385
		採択	55	21,872,284
		採択率	64.0%	62.7%
寄付募集・広報				500,000
助成予算額				22,700,000

平成21年度 高知大学国際交流基金助成事業の実績

(平成22年3月末現在)

（平成22年5月末現在）

事 業 名		区分	件数	金 額
1	外国の大学との間で協定を締結する事業および当該協定に基づく事業 1件当たり上限50万円	申請	18	8,669,250
		採択	10	4,649,210
		採択率	55.6%	53.6%
2	外国人研究者の招へい事業 1件当たり上限50万円	申請	8	2,702,030
		採択	5	1,585,630
		採択率	62.5%	58.7%
3	外国人留学生への奨学金 月額3万円×12ヶ月	申請	40	14,400,000
		採択	16	5,580,000
		採択率	40.0%	38.8%
4	外国へ留学する学生への奨学事業 1件当たり上限30万円	申請	4	1,080,000
		採択	2	400,000
		採択率	50.0%	37.0%
5	大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業 1件当たり上限30万円	申請	10	2,582,010
		採択	8	1,946,280
		採択率	80.0%	75.4%
6	外国人留学生の帰国後の協力関係の樹立・維持のためのフォローアップ事業 1件当たり上限50万円	申請	1	762,128
		採択	1	483,520
		採択率	100.0%	63.4%
7	職員の海外派遣事業 1件当たり上限30万円	申請	7	7,683,060
		採択	6	1,547,048
		採択率	85.7%	20.1%
8	その他国際交流に必要な事業 国際共同研究 国際会議 その他の事業 1件当たり上限100万円	申請	11	7,594,120
		採択	9	5,930,910
		採択率	81.8%	78.1%
合 計		申請	99	44,356,198
		採択	57	22,122,598
		採択率	57.6%	49.9%
寄付募集・広報				155,925
助成予算額				25,500,000



第1回 高知大学 東京シンポジウム

グリーンサイエンスからの発信

日 時 平成21年1月10日(土)
場 所 日本薬学会 長井記念ホール
(〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 TEL:03-3406-3326/FAX:03-3406-7580)

プログラム

9:00	開会挨拶	相良祐輔 (高知大学長)
9:10	祝 辞	文部科学省
9:20	業績紹介	7名×各10分 柳澤和道・小槻日吉三・市川善康・宇高恵子・本家孝一・津田正史・大嶋俊一郎
10:30-10:50	休 憩	
10:50	依頼講演	Intramolecular Carbometallation of Alkynes: a Versatile Route to Heterocycles Prof. J. Maddaluno (IRCOF/U of Rouen, FRANCE)
11:30-14:00	昼食+パネル展示(研究分担者全員)・討論	
14:00	依頼講演	環境対応技術の開発 三井化学を例に 昇 忠仁 (三井化学(株)、マテリアルサイエンス研究所・所長)
15:00	招待講演	New Catalytic Methods Designed for the Efficient Synthesis of Natural Products Prof. T. J. Donohoe (University of Oxford, UK)
16:00-16:20	休 憩	
16:20	特別講演	二中心不斉触媒の新しい展開 柴崎正勝 (東京大学大学院薬学系研究科・教授)
17:20	閉会挨拶	井上新平 (高知大学研究担当理事・副学長)
18:00	懇 親 会	

連絡先: 〒780-8520 高知市曙町2-5-1
高知大学教育研究部自然科学系
小槻 日吉三
TEL:088-844-8298 FAX:088-844-8359
E-mail:kotsuki@kochi-u.ac.jp

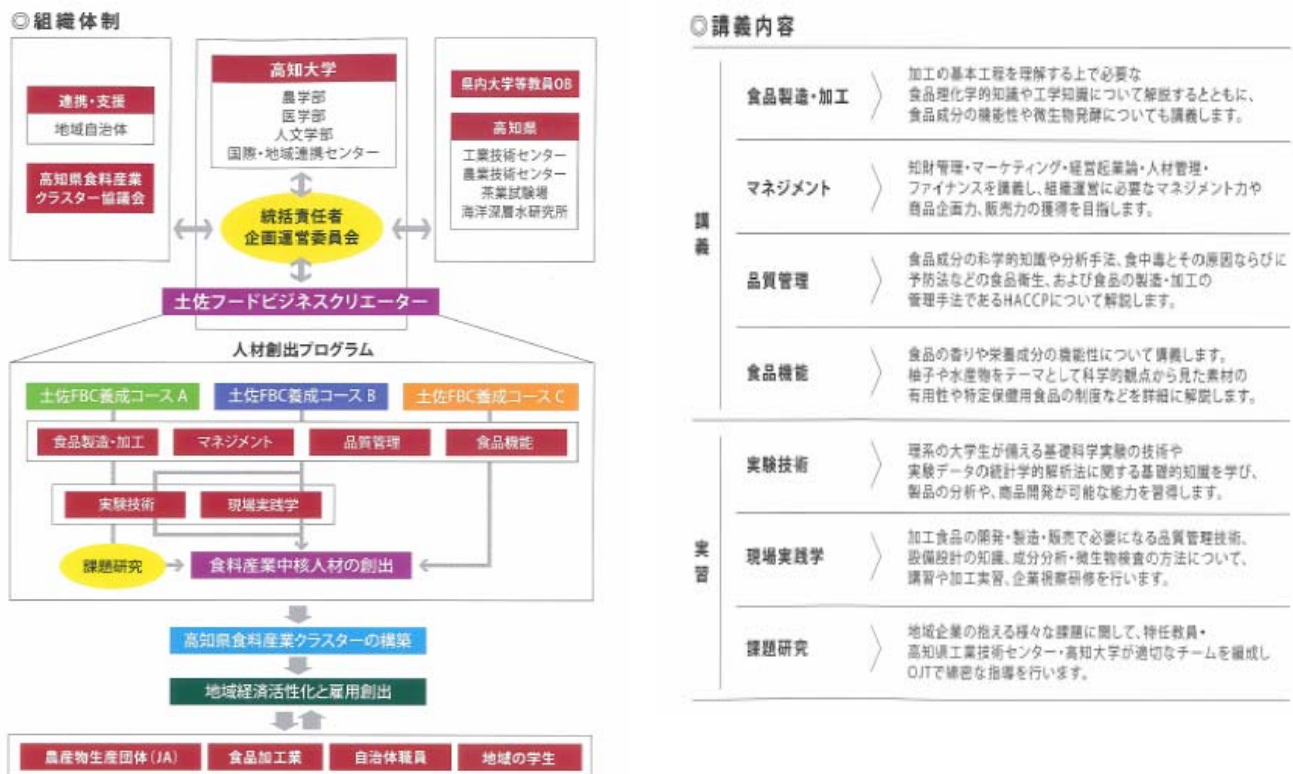
please visit the Green Science HP : <http://www.kochi-u.ac.jp/GS/>



KOCHI UNIVERSITY
高知大学

AKEBONO-CHO, Kochi 780-8520, Japan
TEL: +81-88-844-8117 FAX: +81-88-844-8926 E-mail: kk03@kochi-u.ac.jp

資料 23 「土佐フードビジネスクリエーター人材創出」組織体制・講義内容・受講生内訳



平成20年度 受講生

職種	人数	内 訳
食品関係	13名	製造・販売（9）、器具販売（1）、開発（1）、流通（2）
農業関係	3名	農協（1）、肥料製造（1）、生産法人（1）
市役所	4名	
学 生	4名	
その他	7名	無職（3）、専修学校（1）、技術補佐員（1）、その他団体（2）
計	31名	

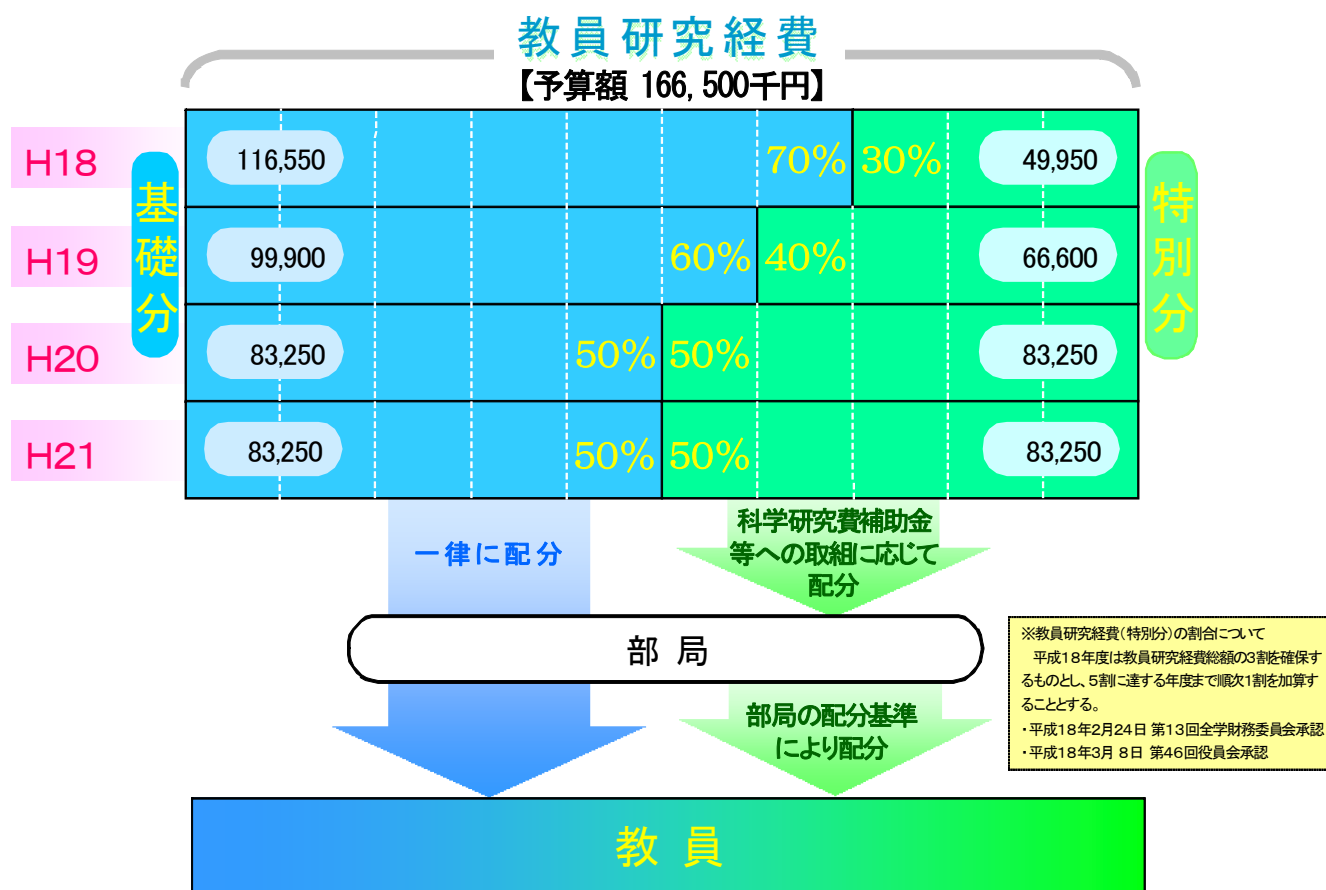
平成21年度 受講生

職種	人数	内 訳
食品関係	17名	製造・販売（14）、開発（2）、流通（1）
農業関係	11名	農協（4）、農家（2）、農場・果樹園（2）、開発（1）、生産法人（1）、農事組合法人（1）
水産関係	1名	コンサルタント
市役所	1名	
その他	3名	無職（2）、大学教員（1）
計	33名	

資料 24 教員研究経費配分イメージ図

(出典：平成 21 年 9 月開催 第 118 回役員会資料)

教員研究経費の配分について



資料 25 科学研究費補助金獲得のためのインセンティブ経費取扱要領

科学研究費補助金獲得のためのインセンティブ経費取扱要領

平成 20 年 8 月 4 日
学 長 裁 定

- 1 趣 旨
「科学研究費補助金採択増へ向けての方策（平成 19 年 9 月 19 日第 77 回役員会承認）」に基づき、次年度の科学研究費補助金（以下「科研費」という。）の採択増に繋げることを目的に、インセンティブとしての研究経費（以下「経費」という。）を配分する。
- 2 対象者
経費配分の対象者は、当該年度の科研費に申請した研究課題の審査評点が「A」に該当する教員等とする。
- 3 経費の配分
経費は、当該年度の予算の範囲内において、次の区分により配分するものとする。
①若手教員等（42 歳以下）に対して、初年度応募経費の 20%程度に相当する額で 30 万円を上限とする。
②若手教員等以外の教員等（43 歳以上）に対して、初年度応募経費の 10%程度に相当する額で 30 万円を上限とする。
- 4 手続き等
(1) 経費の配分を希望する教員等は、科研費の審査結果の通知書（写）を研究協力課（研究支援グループ）に提出するものとする。
(2) 経費の配分決定後、次の事由が生じた場合には、速やかに研究協力課（研究支援グループ）に連絡し、未使用の経費を返還するものとする。
①病気、外国留学その他の理由で研究を継続することが困難となった場合、若しくは研究の中止又は廃止をしようとする場合
②当該年度末までに全額使用できない場合、又はこのような事態が予想される場合
- 5 経費の使途
経費は、次年度の科研費への申請を予定している研究に充てることとし、使途の費目は、「国立大学法人高知大学における競争的資金等に係る間接経費の取扱要領（平成 17 年 9 月 21 日学長裁定）」の別表「間接経費の主な使途の例示」別表 1 の「2. 研究部門に係る経費」によるものとする。
- 6 留意事項
経費の配分を受ける教員等は、次のことに留意するものとする。
①経費の配分は研究代表者のみであり、分担者への再配分はできないこと。
②配分された経費を翌年度に繰越すことができないこと。
③原則として次回申請時までに応募書類のブラッシュアップを受けること。
- 7 報 告
経費の執行終了後は、別紙「科学研究費補助金補助金獲得に向けての研究実施報告書」により翌年度 4 月 10 日までに研究協力課（研究支援グループ）に報告するものとする。
- 8 その他
この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定めるものとする。

資料 26 若手教員等による自発的な取組等の促進を図るための配分について

(出典：平成 21 年 3 月開催 第 108 回役員会資料)

平成 21 年度国立大学法人高知大学予算編成方針について（前年度との比較）

平成 21 年度国立大学法人高知大学予算編成方針	平成 20 年度国立大学法人高知大学予算編成方針
(6) 留意すべき制度改革等 ① 収入面 ア. 科学研究経費補助金の拡充と改革 a. 多様な学術研究を支える基盤研究の充実 国公立大学の多様な研究者が応募する「基盤研究 (C)」の充実や、応募上限額の拡大に伴う「基盤研究 (S)」の充実。 b. 革新的な学術研究の推進 新たな領域を開拓するための「新学術領域研究」の枠を拡充。 c. 若手研究者育成・支援の拡充 若手研究者の自立を促進するための「若手研究 (S)」の充実や、若手研究者のチャレンジする機会を確保するための「若手研究 (B)」の充実。 d. その他の費目の見直し 既存の研究種目について見直しを行い、転換・統合等を実施。	(6) 留意すべき制度改革等 ① 収入面 ア. 科学研究経費補助金の拡充と改革 a. 間接経費 30%措置の実現 多くの私立大学や地方国公立大学から申請のある「若手研究 (B)」、「若手研究 (スタートアップ)」に新たに間接経費 30%を措置。 b. 「新学術領域研究」の新設 異分野連携などにより新しい領域の開拓を促進し、学術研究にブレイクスルーをもたらす「新学術領域研究」を新設。

資料 27 平成 20, 21 年度 部局長裁量経費を活用した研究プロジェクト等一覧

【人文学部】

単位：円

年度	課題名	特筆すべき成果	配分額
20	臨海地域における戦争と海洋政策の比較研究（他 11 件）	「前近代における近畿－土佐間の海洋ルート」担当の第 2 研究班を中心に研究を行い、下記の研究成果について、次年度「人文学部研究プロジェクト報告会」を開催し、多数の参加者の下、活発な意見交換がされた。 1. 横穴式石室に見る太平洋と瀬戸内 2. 朝鮮出兵と山路城 3. 近世日本における「浦」の異国船への「初期対応」－土佐藩の事例－ 4. 北原村役場文書について－忠霊塔関係文書を中心に－	1,000,000
合計			5,173,000
21	交流する社会・文化－高知へ／高知からのまなざし－（他 9 件）	これまでの研究蓄積の総合化・具体化を目指して、研究会を毎月開催し、メンバー全員による以下の研究報告を行った。また、それらの多くをベースに「高知大学人文学部研究叢書」として出版を行った。 第Ⅰ部 歴史編 明治期の文明開花について／高知文学散歩／幸徳秋水と漢詩／明治初期の英語学校について／義堂周信の「銅雀硯記」をめぐる／天賦人権論をめぐる論争／ホノルルの高知城 第Ⅱ部 現代編 越境する労働力と地域の変貌／外国人・中国帰国者と日本語支援活動／日本語教育ファシリテーター／こども劇場の活動とジェンダー／高知県における環境保全活動／地域アートマネジメント／ホラー映画に見る死生観／高知における情報化の日常生活への影響／地域の暮らしと「生活密度」	1,000,000
合計			4,682,000

【教育学部】

単位：円

年度	課題名	特筆すべき成果	配分額
20	中学生の数学学力向上のための具体的教材の開発とその指導法の研究（他 8 件）	本プロジェクトを通して参加中学教員の数学実践力を向上させ、研究で得られた知見が高知県内中学校の数学授業改善につながられた。	565,800
合計			3,215,740
21	中山間地生活体験を基にした土佐の環境教育－教科力・教材開発力・マネジメント力育成を目的とした科学教育教員教育力教科の取組み－（他 7 件）	環境教育の観点から地域との協働による学生教育の実践効果は、教育力の向上とともに教員の意識改革へつながられた。	406,000
合計			3,461,750

【理学部】

単位：円

年度	課題名	特筆すべき成果	配分額
20	主体的学習の場としてのウェブ利用とその繋がりを活用するデザインに関する研究（他2件）	日々増え続ける膨大なウェブコンテンツやウェブ空間そのものに注目し、学習の場としてウェブを利用することを追究することにより、習慣化を支援する Social Network Service の提案、設計において成果をあげた。	500,000 合計 1,250,000
21	多重極限環境下において興味深い挙動を示す新物質の開発（他5件）	今まで独自に開発してきた測定技術と試料技術、物理と化学が融合することによって、高知大学から発信できる新物質(CeRu2Al10)を世に送り出すという目的を達成するばかりでなく、さらに大きな発展へとつなげられた。	1,115,000 合計 3,965,000

【医学部】

単位：円

年度	課題名	特筆すべき成果	配分額
20	高齢者におけるインフルエンザワクチン接種前後の抗体価に関する経年的研究（他19件）	地域在住高齢者には、インフルエンザワクチン接種後反応良好群と同不良群が存在し、両群をワクチン接種前抗体価で事前にある程度予測可能であることが分かった。	200,000 合計 9,411,000
21	拡散強調 MRI 画像による乳癌術前化学療法効果予測（他22件）	術前化学療法（EC療法）をうけた16症例の乳癌患者が集まった。EC1および2クール投与後の拡散強調 MRI 画像から ADC 値の変化率を算出、全 EC 療法終了後の縮小率と1、2クールともに相関がみられた。臨床上、1クール目で縮小率予測が可能となるとより実用的なために、より症例数を集積しての解析を続行する予定である。	500,000 合計 9,150,000

【農学部】

単位：円

年度	課題名	特筆すべき成果	配分額
20	温室周辺における熱資源の高度利用に関する研究（他7件）	園芸ハウス室内外の熱保持を高める二重泡沫被覆ビニールの開発研究を行い、冬季の運用のめどを立てるに至った。また、スイカ果実周辺のみを冷却する局所冷房システムは、果実の高品質化に有効であることを示した。	500,000 合計 3,255,000
21	高知系褐毛和種の筋肉内脂肪前駆細胞株の樹立とその特性の解析（他11件）	肉用牛としての価値を秘めた高知系褐毛牛の優れた脂肪交雑系を作出・判定するための、長期を要さず実施できる筋肉内脂肪細胞の培養系を開発した。	500,000 合計 4,505,000

【黒潮圏】

単位：円

年度	課題名	特筆すべき成果	配分額
20	黒潮圏離島域の民間薬の利用と資源に関する調査（他3件）	フィリピン・バタネス州における調査の結果から、この地域の死因が感染症などから生活習慣病へと変移していることが明らかとなった。そこで、この地域の死亡原因の主な基礎疾患となっている高血圧に関して、使用されている薬草の効果について、ACE 阻害活性を指標として評価した。現在、活性成分について研究が進行中である。	300,000 合計 900,000
21	「サンゴへの褐虫藻の出入りの挙動における微細形態学的解明」（他3件）	本研究では、クシハダミドリイシとハナヤサイサンゴのストレスを受けていない細胞（コントロール細胞）において、ポリプの各部位での褐虫藻の分布密度を明らかにし、また、ハナヤサイサンゴにおける褐虫藻の基本的な微細構造を明確に示すことができた。	220,000 合計 650,000

認証型 Web 申請・審査システム

— 遺伝子組換え実験安全委員会、動物実験委員会 —



●生命科学分野の研究において、遺伝子組換え実験ならびに動物実験は必要不可欠なものです。これらの実験は、関連委員会等での十分な審査を経て機関長等の承認下で実施することが、法律・基準等で義務付けられています。その一方で、近年これらの実験申請はそれまで以上に頻繁に寄せられる傾向にあり、一連の手続きを迅速に処理していく必要があります。高知大学総合研究センターでは、これら一連の手続きをより効率的に行う Web を利用した認証型の電子申請・審査システムを完成させ、このたび「認証型 Web 申請・審査システム—遺伝子組換え実験安全委員会、動物実験委員会—」をパッケージ化し、有償にて提供可能となりました。詳細は、高知予防医学ネットワーク（088-880-2734、E-mail: info@kochi-hcnet.org）までお問い合わせ下さい。

■このシステムを導入するメリット

従来、この種の実験計画書の審査・承認手段は、委員会開催または書類等の持ち回り形式に頼っていました。しかし、前者は委員・事務方の地理的・時間的観点からの制約が大きく、後者は書類郵送時の時間的・機密保持の観点ならびに進行状況が把握しづらいなどの大きな問題点を抱えています。

本システムは、頻繁に寄せられる多数の申請を迅速に処理でき、かつ委員会委員・事務方の負担が少なく、さらに、申請者も審査の進捗状況が把握できるものであり、従来の問題点を一挙に解決できます。

■Web を利用した PC 環境に依存しないシステム

システムの実体は HTTP サーバの下で動作する Web ベースのソフトウェアです。Windows / Mac を問わず、Web ブラウザでインターネットを閲覧出来る環境さえ整っていれば基本的に使用可能です。

■認証機能の導入により権限を設定

本人確認を行う認証機能が導入しており、以下の機密性の保持が確保されています

- 一連の手続きと担当者の権限を厳密に設定し、手続きの信頼性を保証しています。
- 最初の申請時点で申請書に所有権が設定され、実験希望者（申請者＝一般ユーザー）本人以外は該当計画書にアクセス出来ません。

※認証のコア部分は各大学で仕様異なるため、大学ごとの設定条件で設定いたします。

■実験希望者による申請作業

申請計画書の作成作業時には、以下の便利な機能が盛り込んであります。

- 作成中に一旦中断した時は内容をパソコンにダウンロードでき、再開後にそのデータを計画書に読み込むことが可能です。

- 申請する際に、記入漏れなどの単純ミスはシステム側が自動的にチェックし、かつそれらをすべて修正しない限り申請できない仕組みです。したがって、担当者による申請不備を拾いだす手間を大幅に軽減できます。

■各実験委員会における審査

申請内容が受理されると、委員会にて審査を行います。その際システムには委員として認証された者しかアクセスできません。それぞれの実験委員会は、数名～十数名の委員で構成されており、審査状況一覧表では各委員ごとの審査状況が一覧表形式で表示されるので、万一審査が滞っている場合でも速やかに対処可能です。

■「遺伝子組換え実験安全委員会」と「動物実験計画委員会」間でデータを相互に連携

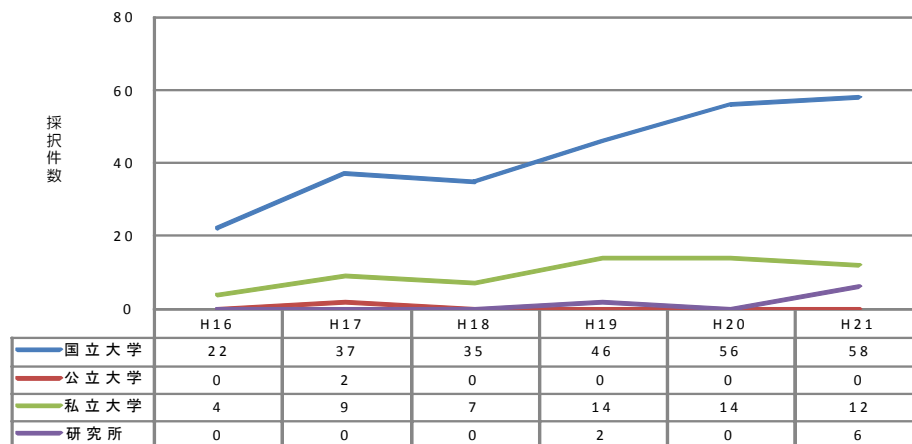
例えばロックアウトマウス等の遺伝子組換え動物を用いた実験は、遺伝子組換え実験安全委員会にて審査・承認した後、続いて動物実験委員会でも別の計画書で審査を行う必要があります。その際、動物実験委員会側の審査において遺伝子組換え実験安全委員会での申請内容や審査結果の参照が必須であるため、両者でデータを相互に連携出来る仕組みになっています。（※権限を持つ担当者のみ）



- 販売する『認証型 Web 申請・審査システム』は、『遺伝子組換え実験安全委員会』と『動物実験委員会』のパッケージセットが、サーバコンピュータにインストールされた状態で提供されます。従って、各大学独自の認証システムを利用し、設定が完了すると、このサーバにログイン出来、申請・審査が出来るようになります。
- 大学ごとの各委員会メンバーの設定等は、すべて高知予防医学ネットワークで完成させてから納入されます。

資料 29 全国共同利用申請採択状況及び研究一覧

(平成 22 年 3 月末現在)



全国共同利用共同研究一覧

【平成 20 年度】

課 題 名	共同研究機関名	分担者
海洋環境におけるメタンの地球化学的研究	東京大学海洋研究所	池原 実
微生物変質様組織を伴う付加体緑色岩中の炭酸塩鉱物における炭素同位体比およびその起源	愛媛大学大学院	池原 実
陸域炭酸塩堆積物を用いた古環境解析	広島大学大学院	岡村 慶
太古代・原生代の海底環境の変遷	九州大学大学院	池原 実
IODP 南海トラフ地震発生帯掘削で採取された断層試料における炭素量変化の検出および微小変形構造の観察	大阪大学大学院	池原 実
海洋底構成物質の岩石磁気学的特徴についての基礎的研究	岡山理科大学	小玉 一人 山本 裕二
コア掘削時に発生する二次磁化の付加およびヒストンコアの変形と初期磁化率異方性への影響の評価	同志社大学	小玉 一人
全三畳系海洋環境イベントの解析	愛媛大学大学院	小玉 一人 池原 実
下北沖CK06-06コアの微化石層序・酸素同位体層序にもとづく年代モデル構築	東北大学大学院	池原 実
東部地中海における超塩分湖 (Medee Lake) の形成発達史とそのテクトニクス背景	東京大学海洋研究所	村山 雅史
地球環境変動に関わる海洋植物プランクトン種の変動とそれを支配する海洋環境変動に関する研究	東海大学	村山 雅史
Late Quaternary environmental change at Lake Suigetsu, central Japan: organic geochemical evidence for past primary productivity	東京大学大学院	池原 実
鮮新世中期の温暖期に関連した日本海での暖流系種の産出とその意義	秋田大学	池原 実
グリーンランドに分布する 2.8 Ga の Dolerite の岩石磁気的性質	神戸大学大学院	山本 裕二
火山灰の磁気特性の研究ー琵琶湖湖底堆積物中と噴出源火山灰を対象として	京都大学大学院	小玉 一人 山本 裕二

【平成 21 年度】

課 題 名	共同研究機関名	分担者
太古代・原生代の海底環境の変遷 2 (有機物と鉄沈殿堆積物)	九州大学大学院	池原 実
海底熱水活動の影響を受けた微生物生態系の復元のための予察的探求: 黒色頁岩の有機態・無機態窒素の存在量及びその窒素安定同位体組成からの制約	東邦大学	池原 実
安芸陸上コアリング試料 (唐ノ浜層群穴内層) の古地磁気学的・岩石磁気学的研究	岡山理科大学	小玉 一人
堆積物中の広域テフラ同定のための岩石磁気学的研究	岡山理科大学	山本 裕二
IODP Expedition 310 で得られたタヒチ化石サンゴの骨格記録に基づいた南太平洋における過去約 2 万年間の海洋環境変動復元	琉球大学	村山 雅史
微生物変質様組織を伴う付加体緑色岩中の炭酸塩鉱物における炭素同位体比およびその起源	愛媛大学大学院	池原 実
グリーンランドに分布する 2.8 Ga の Dolerite の岩石磁気的性質	神戸大学大学院	山本 裕二
南海トラフ高角逆断層および陸上付加体に発達する過去の地震断層における摩擦発熱の痕跡について	大阪大学大学院	池原 実
全三畳系海洋環境イベントの解析	愛媛大学大学院	小玉 一人 池原 実
南東太平洋から採取された YK0408-PC5 コアの酸素安定同位体比層序	横浜国立大学	池原 実
内湾沿岸性生物相の周期変動における対馬暖流の水温変動の影響評価	熊本大学	安田 尚登
北太平洋亜寒帯域の完新世における 1000 年スケール海洋環境変動の復元	愛媛大学	村山 雅史 岡村 慶
無機元素から復元する西赤道太平洋の古気候変動	産業技術総合研究所	池原 実 山本 裕二
鉄マンガンクラストに含まれる磁性鉱物の同定	産業技術総合研究所	山本 裕二
下北沖 C9001C コアの生物源オパールの変遷	東北大学大学院	池原 実
北大西洋亜極前線下に発達する珪藻軟泥由来の浮遊性有孔虫を用いた古環境研究	秋田大学	池原 実
中新世から鮮新世にかけての赤道太平洋における熱水・続成堆積物およびそれらの時空分布と古海洋環境との関連性	茨城大学	村山 雅史 池原 実

30

資料 31 高大連携授業プロジェクト実施実績

(平成 22 年 3 月末現在)

高大連携教育事業の内容（注）	実 施 校	参加生徒数					
		H16	H17	H18	H19	H20	H21
連携授業プロジェクト「クリエイティブ・シンキング」	高知県立高知西高等学校	25	31	16	18	25	18
	高知県立高知丸の内高等学校					2	3
	高知県立春野高等学校				5	7	3
	高知県立須崎高等学校				2	2	
	高知県立仁淀高等学校						3
課題探求実践学習プログラム（施行）	高知県立中村高等学校					12	
連携授業プロジェクト「自律創造学習」							26
連携授業プロジェクト（総合的な学習の時間に開設） 「自律創造型地域課題解決学習プログラム」（H17～H18でプログラム開発）	高知県立大方高等学校		60	110	180	180	162
連携教育プログラム開発「植物バイオテクノロジー」「果樹」「グリーンライフ」	高知県立春野高等学校				44	80	69
連携教育プログラム開発「地震と活断層」「災害科学」（大学の講義に参加＜高知丸の内高等学校の理学系＞）						—	1
高大連携教育プログラム開発プロジェクト①「学びを創る」	高知県立高知丸の内高等学校			5	5	4	2
	高知県立高知北高等学校					5	2
高大連携教育プログラム開発プロジェクト②「国際協力入門」 ※H20年度は大学開講「課題探求実践セミナー（国際協力入門）」	高知市立商業高等学校				6	14	4
	高知県立高知南高等学校					7	
	高知県立高知工業高等学校					1	
	高知県立須崎高等学校						4
	高知県立丸の内高等学校						1
	高知県立大方高等学校						1
高大連携教育プログラム開発プロジェクト③（クリエイティブ系授業）「環境学概論」	高知県立四万十高等学校				15	15	23
高大連携教育プログラム開発プロジェクト④ （総合的な学習の時間における「クリエイティブ・シンキング」）	高知県立仁淀高等学校					43	
課題探求実践学習プログラム（施行）	高知県立中芸高等学校					40	
高大連携教育プログラム開発プロジェクト⑤（クリエイティブ系授業）「中芸学」							67
高大連携教育プログラム開発プロジェクト⑥「自由探求学習」	高知県立高知丸の内高等学校						2
高大連携教育プログラム開発プロジェクト⑦（クリエイティブ系授業） 「物事の本質を理解する（東南アジアの象被害）」	高知県立高知東高等学校						200
高大連携教育プログラム開発プロジェクト⑧（クリエイティブ系授業）	高知県立梶原高等学校						33
	受講生数 合計	25	91	131	275	437	624
高校生プレゼンフェスタ参加校数		5	10	11	12	14	
高校生プレゼンフェスタ参加生徒数		47	54	44	77	79	

注）表の数値には出前授業・大学訪問・体験授業等は含まない。

※1 連携授業プロジェクト【高大が連携して授業を実施するもの（単位認定有）】

※2 連携教育プログラム開発プロジェクト【高大の教員が協働で新しい連携教育プロジェクトを開発する（単位認定有）】
開発されたプログラムは「連携授業プロジェクト」として実践する。

資料 32 高知大学国際交流のあり方について一次期中期計画を見据えて一

(出典：平成 20 年 11 月 20 日 高知大学国際交流のあり方懇報告(抜粋))

提言(1)：教育の国際化

- (1) 留学生の受け入れを、学生総数の最低 5 % (250 人) に引き上げる。そのための宿舎や教職員の配置、およびカリキュラムを整備する。
- (2) 海外への留学生派遣を、学生総数の最低 1 % (50 名) に引き上げる。入学者全員に TOEFL の受験を義務付けるとともに、きめ細かな指導を行い、とくに英語圏への留学を促進する。
- (3) 海外での短期研修を充実させ、語学研修者には、外国語の単位を認定する。そのための研修受け入れ先、およびカリキュラムを整備する。
- (4) 国際理解教育や海外フィールド実習を充実させ、大学院における外国語による授業を増加させる。

提言(2)：研究の国際化

- (1) 国際的な競争力と外部資金の獲得に資する「国際研究拠点」を設ける。現在、年度計画で実施されている 4 つの研究プロジェクトは、国際的な観点から新たに見直す。
- (2) 文理融合型の学際的研究を推進し、海外諸大学との共同研究や連携を深める。そのための国際的な知的財産制度を整える。
- (3) 文科系の博士課程を設け、国際的な研究を推進するとともに、海外の優秀な学生を受け入れる。

提言(3)：

- (1) 「国際戦略本部」あるいは「国際連携推進本部」を設け、大学の国際化について総合的、戦略的に企画、運営できる体制を整備する。
- (2) 国際交流部門と留学生部門を統合ないし連携強化し、両者が一体となって活動できる環境を作る。研究協力部と学務部に分かれている国際関連の事務組織も統合ないし連携強化し、両者が一体となって活動できる体制を整備する。
- (3) 本学で学んだ留学生のネットワークを構築し、海外における連絡網を整備する。あわせて、各部局における国際交流関係の委員会を点検し、国際交流の事務職員を適切に配置する。

提言(4)：協定校の組織化と重点化

- (1) 協定校を地域ごと、あるいは研究分野ごとに組織化し、ここに予算や人員を重点的に投下する。
- (2) 組織化した地域ごとに海外事務所や海外拠点を置き、国際的な共同研究の促進および情報交換、留学生の受入、派遣などの業務にあたる。

提言(5)：予算と施設、設備

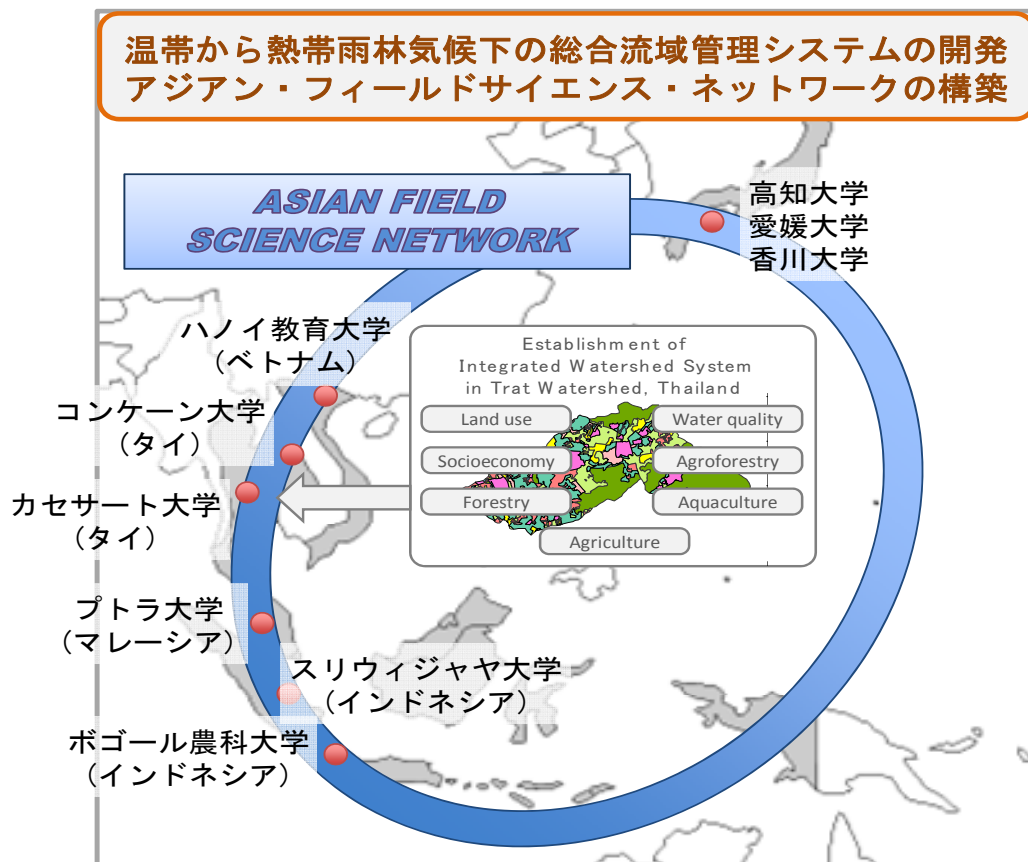
- (1) 高知大学国際交流基金の総額を現行の水準またはそれ以上の水準で維持するとともに、実施の費用対効果を明示するシステムを作る。
- (2) 学長裁量経費や年度計画実施経費の国際関連部分と、国際交流基金の目的、区分を明確にする。
- (3) 留学生宿舎および教職員用のゲストハウス(朝倉おうちクラブなど)の整備を急ぐ。

提言(6)：計画、実行、評価、改善 (PDCA)

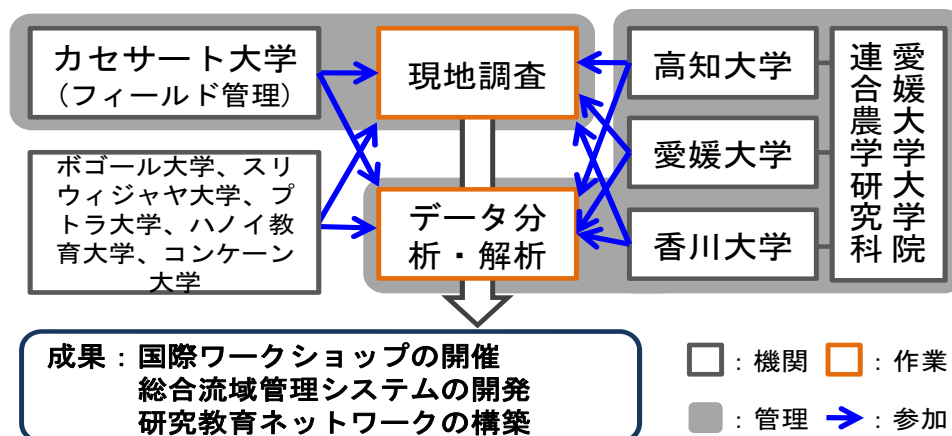
- (1) 国際交流における実績、評価の基準を見直し、より質の高い交流を推進する。
- (2) 国際交流担当教員の業務を可視化し、教員評価に反映させる。
- (3) 事務職員の語学力を高め、国際系職員の専門化を推進する。

資料 33 フィールド科学先端研究者ネットワーク図

(出典：若手研究者交流支援事業申請資料より)



概念図



機関の関係

資料 34 高知大学国際交流活動実績

22.3.31 現在

項 目		1 6 年 度	1 7 年 度	1 8 年 度	1 9 年 度	2 0 年 度	2 1 年 度	備 考
①国際交流協定締結（新規）	大学間協定校	2	5	4	4	1	6	南京、サラワク、ハルオレオ、中国文化、タンジュンブラ、白石
	部局間協定校	3	1	2	4	3	5	忠北、中国科学院、慶尚、パドバ、ハワイ
②国際交流協定締結（更新）	大学間協定校	2	2	0	1 1	4	2	プレスノ、チェンデラワシ
	部局間協定校	0	0	0	0	0	1	首都医科
③国際交流協定締結（終結）	大学間協定校	1	1	2	0	1	0	
	部局間協定校	0	0	1	0	0	3	上海第二医科、ハルオレオ、白石
国際交流協定締結（継続中）	大学間協定校	2 9	3 3	3 5	3 9	3 9	4 5	
	部局間協定校	7	8	9	1 3	1 6	1 8	
④協定校からの受入者数（大学間） （部局間）	研究者・職員	3 4	4 7	3 3	5 7	6 3	7 2	
	留学生等	8 6	6 0	5 0	4 3	9 5	7 1	
	研究者・職員	1 3	6	1	2 3	1 5	2 4	
	留学生等	1	1	3	6	2 4	9	
⑤協定校への派遣者数（大学間） （部局間）	研究者・職員	9 0	8 1	9 0	9 3	1 0 9	1 0 6	
	留学生等	4 3	1 0 1	1 1 8	1 1 4	1 2 7	7 9	
	研究者・職員	6	6	1 4	2 6	2 7	3 5	
	留学生等	1 7	1 1	3	7	1 4	1 8	
⑥共同研究数	大学間協定校	1 9	3 0	4 5	4 3	4 8	6 0	
	部局間協定校	6	5	9	1 7	2 0	1 5	
⑦国際シンポジウム・セミナー開催数	大学間協定校	1 6	1 4	1 4	4 2	3 2	3 1	
	部局間協定校	2	2	3	6	5	1 0	
⑧講義・実習・フィールド活動数	大学間協定校	1 3	2 2	2 8	4 3	5 3	6 6	
	部局間協定校	1	1	2	1 1	1 0	1 2	
⑨外国人研究者の受入者数	全学	2 2	1 8	2 0	1 3	2 0	2 3	「高知大学外国人研究者受入規則」による
⑩日本学術振興会 国際交流事業・研究者養成事業	申請数	3 5	3 4	4 5	3 3	3 0	4 1	
	採択数	5	6	1 0	4	8	6	
⑪日本学生支援機構 帰国留学生フォローアップ事業	申請数	2	2	2	1	3	3	
	採択数	1	1	2	0	3	1	
・ J I C A 集団研修事業		9 名受入	7 名受入	6 名受入	8 名受入	7 名受入	6 名受入	集団型
・ 文部科学省国際化推進プログラム		申請 8 件 採択 6 件	申請 0 件 採択 0 件	申請 0 件 採択 0 件	申請 2 件 採択 0 件	申請 0 件 採択 0 件	— — —	国別（マダガスカル） 先端的国際連携支援、国際協力イニシアティブ

資料 35 高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）設立大会
（高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門ニュース）

高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）設立大会

修学・留学生支援部門長 渡邊春美

2009年11月15日（日）、15時、高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）設立大会が開催された。外は生憎の雨模様ではあったが、本降りにはならなかったのは幸いであった。2009年3月に準備会を持ち、満を持して開催した設立大会であった。来賓として、吳建農上海海洋大学学長補佐・教授、陶杰南京航空航天大学材料科学技术学院院长・教授、元木宏之高知県貿易協会上海代表見事代表、山下修也同窓所長他が時間を割いて臨席下さった。大会は、第Ⅰ部 基調講演・第Ⅱ部 同窓会総会・第Ⅲ部 懇親会の三部で構成され、約50名が参加した。

第Ⅰ部

基調講演に先立って尾崎正直高知県知事からのメッセージが遠藤隆俊副学長によって紹介された。櫻井克年理事・副学長による講演は、

- 1 国立大学法人高知大学の概要
- 2 学術交流協定校との交流
- 3 留学生交流の状況
- 4 今後の展望と課題
- 5 高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会設立

という項目が進められた。結びは、「吾の友と思ひ旧を語り、互いを愛でて美酒に酔う。志ははるか世界をめぐり、心に念ずる。今がそのとき。今こそ始まるのとき」と締めくくられた。



遠藤隆俊副学長による
尾崎正直高知県知事の挨拶紹介



櫻井克年理事による基調講演



基調講演の様様



修学・留学生支援部門長渡邊春美教授
による開会の挨拶

第Ⅱ部

同窓会総会は、何明議長（上海交通大学農学院教授）によって議事進行がなされた。総会は、（1）高知大学関係者紹介、（2）幹事長・幹事の選定承認、同窓会規約の承認、（3）卒業生・修学生自己紹介・近況報告・名利交換と進められた。同窓会の役員は、次の方々をお願いすることになった。



同窓会設立総会の議長を務める
上海交通大学何明教授

会 長：鍾俊生（上海海洋大学教授 1997年10月～2003年8月：連合農学研究科）
副会長：何 明（上海交通大学教授 1992年4月～1999年3月：連合農学研究科）
幹 事：游曉東（同濟大学教授 1992年1月～1998年3月：連合農学研究科）
幹 事：曾慶清（美國留場香港有限公司上海代表見事〈ミネルノ〉
1996年3月～2002年3月：人文学部社会経済学科）
幹 事：王 健（三井信息電子科技〈上海〉有限公司
1998年4月～2002年3月：人文学部社会経済学科）
幹 事：朱孔軍（南京航空航天大学教授 2002年2月～2005年3月：理学研究科）
幹 事：胡重芹（浙江大学副教授 2004年10月～2007年9月：連合農学研究科）

高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会会長に就任して

中国海洋大学教授 鍾俊生（ZHONG Junsheng）

同窓生の皆様におかれまして、多方面でのご活躍をお喜び申し上げます。また皆様には日頃より同窓会活動へのご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

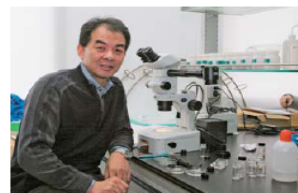
2009年11月15日高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）が設立され、高知大学の卒業生として、大変うれしく思います。これは母校が私たち帰国留学生に上海で私たちの家を作ってくれたと言えます。長い人生で考えれば、4年間あるいは6年の留学生生活は短いものですが、留学中に経験した勉強の辛さや留学生生活の楽しさ等々は、生涯の宝であり、忘れることはできないでしょう。

当日の設立大会で、高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会役員を7名選出され、私は会長に就任いたしました。会長という重責を仰せつかり不安ではありますが、引き受けた以上、誠心誠意努めさせて頂きたいと思ひます。同窓会がこれから何をやるべきかを考えると、やはり中国と高知大学の架け橋の役割を担っていくべきではないか考えます。一人一人の留学生がそれぞれ「橋墩（橋脚）」になり、皆さんの協力で、たくさんの「橋墩（橋脚）」ができれば、「橋」が自然に作られるのではないかと思います。

なお、今後の同窓会活動におきましても、先ず皆さんの帰国留学生をこのネットワークに入れるように呼びかけ、母校の情報を伝え、そして、皆さんの活躍も母校に報告できればと思っております。また、中国上海地域を中心に、在学留学生への支援や同窓生相互の親睦を図る様々な活動を計画していくつもりです。

最後になりましたが、同窓生の皆様にはお身体をご自愛され、今後益々のご活躍を祈念いたしております。

今後とも同窓会活動に暖かいご支援をお願い申し上げます。



資料 36 高知大学総合情報センター広報誌「OWL (あうる)」

(出典：総合情報センターHP)



知ってる? グループ学習室!

図書館というひとりで机に向かって静かに読んだり勉強するというイメージがありますが、実はみんなで集まって学習することもできるのです。総合情報センター各館にはグループ学習室があって、集団での学習をサポートしています。各館、多少利用方法が異なりますが、ゼミの準備や勉強会などにどんな利用してください。

メディアの森(中央館)のグループ学習室を借りるには?

1 1F総合案内前にあんなまで集合!
3人以上集まれば借りることができます。

2 カウンターで手続きをするときに1人以上集まらないとダメなので注意しよう!

3 利用時間は2時間。命に利用者がなければ延長可能!

4 中継室に記入し、鍵と注意書きをもらって、いざグループ学習室へ

5 忘れ物がないか確認!

6 お疲れさまー
総合案内へ鍵と注意書きを返却して終わります。お疲れさまでした。

医学部分館

2階にあります。受付カウンターにある利用簿に記入、鍵を借ります。予約も可能です。

農学部分館

事務室にて中継室に記入し、鍵を借ります。1時間以内なら予約も可能です。

マナーを守って利用しましょう!
もちろん、飲食禁止。騒いだり、大声で話したりはダメです。

学習開始!
カギが入っているときに、グループ学習室で済まないようにしてね。

表紙の人
毎月1冊につづき、図書館で働いている学生スタッフの3名に協力してもらいました。
10月号の表紙：森田さん(経済学部経済情報学専攻) 高田 寛子さん(工学部人間工学専攻) 高田 優希さん(経済学部経済情報学専攻)
[三人から一言]
私達が、皆さんのご利用をサポートします。分からない事があれば、お気軽に窓口までお越しください。

01 | OWL | Voice of the Forest | 02



(展示期間中の様子)

昭和時代前期の学徒兵。大坂出身。大正7年4月9日生まれ。
旧制高岡専科学校卒業。京都府大田地区に出征。陸軍大尉。
インド洋カーゴバトルでの戦死が戦後事件で過激な批判のため責任を問われ、インド軍の軍事裁判を受け、昭和21年5月23日シンガポールで死す、28歳。

戦時中の余白にこのとき手記が、23年に旧制高岡専科時代の師範生公用の「ある通信について」で紹介された。その手記は「さけ わたつめのこゝろ」の最後に取り残られている。手記の中の遺書のとおり、その遺書は京都大学文学部に寄贈された。

「さけわたつめのこゝろ」